

『東洋研究』論文総目録 (2024年7月31日現在)

巻号	発行年月日	分類 番号	著者	論文	頁 開始	頁 終了
1	19610710	1001	平島 敏夫	巻頭言		
		1002	土井 章	後進国のニュウトラリズムと中国の中立主義	1	6
		1003	栗本 弘	インドの中立主義の経済的基盤	7	17
		1004	今井 和郎	ラオスの中立とその基盤	18	30
		1005	青野 博昭	アジア中立主義論ノート	31	42
		1006	矢島 文夫	アラビア語の学習における基礎語彙について	43	47
		1007	伏見 楚代子	“構造改革論”をめぐって	47	50
		1008	真保 潤一郎	※中立外交の歴史的考察と条件—《日本及日本人》3月号特集—	50	53
		1009	坂本 徳松	※非西欧世界の近代化について	54	57
2・3	19620330	1010	高田 真治	三浦梅園と戴東原	1	18
		1011	佐伯 梅友	「已然形=ば」の条件法について	19	28
		1012	真田 但馬	張即之の書について	29	40
		1013	猪口 篤志	邦人の韓非子研究について	41	62
		1014	石井 勲	新しい漢字教育の提案	63	75
		1015	加賀谷 寛	現代イラン文学の社会的条件	76	84
		1016	石田 保昭	インド新興富農層	85	94
		1017	矢島 文夫	現代イスラムの問題点と研究の方向—イスラム研究ノート(1)—	95	102
		1018	青野 博昭	アジア・アフリカの中立主義 -「中立主義の研究」にかんするひとつの論評として—	103	109
4	19630228	1019	土井 章	中国経済開発の基本的課題	1	25
		1020	立田 三也	中国の生産力と生産関係の問題	26	41
		1021	石村 暢五郎	中華民国経済建設の方向—後進国における金融・財政研究の序説として—	42	52
		1022	矢島 文夫	イスラム発生の諸条件について—イスラム研究ノート(2)—	53	60
		1023	加賀谷 寛	[書評]イギリスのイスラム学者の研究生活	61	64
		1024	[所報]	東洋研究所所報	65	
		1025	西林 昭一	包世臣の書学について(研究発表要旨)	66	
		1026	青野 博昭	中立主義の本質と現状(研究発表要旨)	66	
		1027	栗本 弘	インド経済開発における先進国のインパクト(研究発表要旨)	66	
		1028	石田 保昭	マラータ王国の興隆(研究発表要旨)	67	
1029	[座談会]	「日中問題の現状」座談会	67			
5	19631120	1030	土井 章	東南ア諸国の経済開発体制	1	13
		1031	岸 幸一	新民族国家の形成と民意の評価—マレーシア連邦と北ボルネオ—	14	27
		1032	青野 博昭	マルクス主義と「アジア問題」—その1—	28	38
		1033	古川 常深	中世における勸農形態と農民層分解—鎌倉末期、薩摩国入来院の場合—	39	70
		1034	加賀谷 寛	[書評]—Leonard Binder, Religion and Politics in Pakistan (University of California Press, 1961)—	71	75
		1035	[所報]	東洋研究所所報	76	77
6	19631130	1036	高田 真治	孔子の管仲評—華夷論の一端として—	1	23
		1037	山崎 道夫	元田永孚の学問と事功	25	50
		1038	和田 正俊	陽明学者春日潜菴	51	72
		1039	中村 宏	森槐南に於ける思考形態と思想との関聯	73	91
		1040	栗本 弘	低開発諸国の開発と国家の役割	1	16
7	19640201	1041	石村 暢五郎	中華民国における第3次経済建設計画と投資奨励策	17	26
		1042	岸 幸一	太平洋戦争への道としての南方政策決定と昭和研究会	27	34
		1043	金子 昇	国連の基本的性格	35	45
		1044	石田 保昭	アクバル初期の政治変動—ムガル体制の分析(その1)—	46	58
		1045	青野 博昭	[資料紹介]アフリカにおける一党制度—Madeira Keita(マリ共和国内相) ザ・スパーク(1963.2.8)—	59	70
		1046	矢島 文夫	[書評]セルューヤ『アラブ思想』—H. Sérouya: La Pensée Arabe, 1960.—	71	74
		1047	高橋 梵仙	仏教公伝時の仏像と経典についての憶測 —百済国聖明王よりの奉獻物内容は何か—	76	86
		1048	[所報]	東洋研究所所報	87	
		1049	真田 但馬	阮元の南北書派論について	1	28
8	19640801	1050	足立豊	鄧完白の書學	29	58
		1051	西林 昭一	包世臣の書學—氣滿について—	59	71
		1052	西林 昭一	包世臣年譜	72	99

『東洋研究』論文総目録 (2024年7月31日現在)

巻号	発行年月日	分類番号	著者	論文	頁開始	頁終了
9	19641030	1053	土井 章	東南アジア開発の基本的課題	1	20
		1054	伏見 楚代子	東南アジアの国際経済関係	21	34
		1055	青野 博昭	現代アジア論の課題	35	41
		1056	吉村 五郎	中共の統治機構について	42	48
		1057	石村 暢五郎	中華民国における租税政策(1)―クロック税制建議を中心に―	49	54
		1058	田中 千代松	マルクス主義とトインビーの思想(序説)	55	58
		1059	村田 克巳	昭和研究会に対する評価	59	72
		1060	鬼頭 有一	細井平洲先生の政治思想―公座・公論・公評について―	73	79
10	19650220	1061	金子 昇	中共の核保有に伴う諸問題	1	10
		1062	石田 保昭	アクバル皇帝権力の確立―ムガル体制の分析(その2)―	11	18
		1063	武石 彰夫	「根本中堂へ参る道」考―「梁塵秘抄」難解歌私注―	19	29
		1064	三浦 敏明	「ランバスのライザ」とゾライズム―サマセット・モーム小見―	30	40
		1065	根本 正義	昭和十年代の児童文学と浅野晃	41	50
		1066	請川 利夫	比喩表現にみられる高村光太郎詩の彫刻家的発想について	51	54
		1067	真田 但馬	[随筆]書壇とわたし	55	56
		1068	矢島 文夫	[随筆]エジプトで会った人たち	57	58
11	19651030	1069	中村佐一	中華人民共和国の無現金決済	1	4
		1070	[部会報告]	東洋研究所研究部会報告	4	
		1071	吉村 五郎	人民公社試論	5	24
		1072	[所長に就任]	高橋梵仙教授東洋研究所長に就任	24	
		1073	石村 暢五郎	中華民国における租税政策(2)―特に所得税体系について―	25	30
		1074	下斗米 晟	毛沢東選集選読中に見えた古典と小説類	31	40
		1075	三浦 敏明	永井荷風と中国文学―也有と荷風―	41	57
		1076		[書評]「かくし念仏考」第二巻	57	
		1077	山内 一雄	太平洋戦争当時の調査研究機関の回顧	58	68
		1078	中平 栄一	わが国の監査役監査制度に関する若干の考察	69	78
		1079	小野寺 孝一	日本における建築技術近代化の問題―欧米技術の輸入と職人生産―	79	88
		1080	高橋 梵仙	法学博士「小林元」さん―今は地獄、生前・歿後に光る足跡―	89	92
		1081	[研究計画]	東洋研究所昭和四十年年度研究計画及び組織	93	
12	19660530	1082	武石 彰夫	宴曲と仏教歌謡との関係	1	17
		1083	安部 宙之介	島村抱月の生涯―上司小剣宛書簡による―	18	31
		1084		本学東洋研究所長高橋梵仙教授の新書「かくし念佛考」第二巻	31	
		1085	坂本 政親	『毒草』考	32	44
		1086	[研究部会]	昭和41年度日本文学研究部会及び近代日本文学研究部会、 編成および分担課題	44	
		1087	三浦 敏明	ドストエフスキーの与えたる有島武郎への影響 ―『罪と罰』と『星座』と―	45	70
		1088	[部会記録]	近代日本文学研究部会記録(昭和40年度)	70	
		1089	請川利夫	高村光太郎のヒューマニズムと戦争詩	71	84
		1090	高橋 梵仙	幕末勤王の歌人「佐久良東雄」真像の制作過程 ―東雄の次女「佐久良ハル」旧蔵―	85	86
13	19661015	1091	猪口 篤志	孟子年表	87	88
		1092	高田 真治	正名の思想	1	11
		1093	山崎 道夫	横井小楠の学術と思想	12	25
		1094	和田 正俊	長岡監物の思想	26	38
		1095	鬼頭 有一	細井平洲先生の政治思想―教育思想の根底にあるもの―	39	46
		1096	中村 宏	実学と漢学―伊藤博文の場合―	47	56
		1097	桑田 六郎	王莽の土地改革について	57	66

『東洋研究』論文総目録 (2024年7月31日現在)

巻号	発行年月日	分類番号	著者	論文	頁開始	頁終了
14	19660630	1098	金子 昇	イスラム研究特集によせて	1	
		1099	加賀谷 寛	現代イスラムの主体変革の基本動向	3	16
		1100	[部会報告]	東洋研究所昭和41年5月研究部会報告	16	
		1101	内記 良一	東方アラブ諸国に於ける言語問題	17	28
		1102	石田 保昭	イスラーム・インドの商業圏の一考察	29	39
		1103	[部会計画]	東洋研究所昭和41年度第1部研究部会計画	39	
		1104	矢島 文夫	イスラム正統思想における異端の規準 —アル・バグダーディーの所論を中心に—(イスラム研究ノート4)	40	46
		1105	[部会計画]	東洋研究所昭和41年度第2部研究部会計画	46	
		1106	井上 博二	インドネシア社会の中国人集団 —全体社会への構造・機能的連関の視点からの問題—	47	56
		1107	[研究会報告]	西アジア研究会報告	57	58
15	19670310	1108	中平 栄一	監査報告書に関する若干の考察	1	16
		1109	永田 元也	清朝末期の鉄道自主化政策と京張鉄道の建設	17	32
		1110	藤井 誠一	税法における所得概念の歴史的考察 —日本税法の所得計算規定をめぐって—	33	48
		1111	都筑 栄	スウェーデンへのひとつのアプローチ	49	71
		1112	吉村 五郎	毛沢東伝	72	86
		1113	下斗米 晟	春秋三伝に見えた楚	87	108
		1114	高橋 梵仙	日本地方史誌目録	(1)	(95)
16	19671010	1115	栗本 弘	国連と南北問題	1	37
		1116	伏見 楚代子	「南北問題」からみた東南アジア経済	38	73
		1117	青野 博昭	マルクス主義と「アジア問題」—その2—	74	106
		1118	井上 博二	東南アジアにおける未開社会的文化型相 —インドネシア社会の文化人類学的アспект—	107	128
		111X	吉村 五郎	中共農業の生産水準と成長力	129	143
		1119	小林 多加士	中国における社会主義教育運動と経済発展	144	166
		1120	高橋 梵仙	一日不作一日不食	167	170
		1121	高橋 梵仙	日本地方史誌目録	(96)	(204)
17	19680530	1122	高田 真治	朱子の封事と陳学批判	1	25
		1123	山崎 道夫	橋本左内の学術と思想	26	57
		1124	中村 宏	「青萍集」から見た末松謙澄	58	79
		1125	倉田 信靖	日本近代思想史に及ぼせる儒学の影響—井上哲次郎の位置—	80	101
		1126	和田 正俊	西郷隆盛と荘内藩との関係に付て	102	114
		1127	吉村 五郎	中共における史観論争	115	122
		1128	高橋 梵仙	日本地方史誌目録	(205)	(383)
18	19680630	1129	武石 彰夫	宴曲と仏教	1	41
		1130	小内一明	「宴曲集巻第一」試釈—その一、「春」—	42	64
		1131	平岡 敏夫	「吾輩は猫である」小論	65	76
		1132	安部 宙之介	詩人岩野泡鳴	77	118
		1133	三浦 敏明	前期自然主義の意義—荷風を中心として—	119	132
		1134	高橋 梵仙	日本地方史誌目録	(384)	(562)
19	19690310	1135	宇野 雪村	書論研究試論—説文解字序を中心に—	1	30
		1136	西林 昭一	康有為の書論	31	70
		1137	足立 豊	「斉白石ノート」	71	113
		1138	武石 彰夫	宴曲と仏教(続)	114	139
20	19690630	1139	栗本 弘	アジアにおける資本主義	1	25
		1140	井上 博二	インドの宗教と社会文化諸体系との力動的過程 —M. Weberの“Hinduismus u. Buddhismus”における方法的視角を中心に—	26	59
		1141	土井 章	中国における社会主義と資本主義の道	60	71
		1142	小林 多加士	後進国の国家資本主義と現代社会主義	72	95
		1143	永田 元也	中国における外国投資の経済的効果をめぐって—鉄道問題との関連から—	96	110
		1144	矢島 文夫	イスラム研究と民族学—学史的展望と方法論の検討—	111	128
		1145	石田 保昭	インド中世におけるヒンドゥの習慣	129	139
		1146	[部会報告]	伝統文化研究部会の経過報告	140	
		1147	高橋 梵仙	飢渴もの	(1)	(101)

『東洋研究』論文総目録 (2024年7月31日現在)

巻号	発行年月日	分類番号	著者	論文	頁開始	頁終了
21	19700315	1148	高田 真治	朱子の戊申封事—朱子の封事と陳学批判(二)—	1	33
		1149	山崎 道夫	吉田松陰の学術と思想	35	109
		1150	倉田 信靖	日本近代思想史に及ぼせる儒学の影響—佐久間象山の位置—	111	128
		1151	鬼頭 有一	佐藤一斎先生の哲学“靈光”について	129	145
		1152	和田 正俊	北陸の鉄人菅臥牛素描	147	158
		1153	中村 宏	佐藤六石の初志と詩	159	184
		1154	市野沢 寅雄	古詩平仄論の伝承について(上)	185	219
22	19700320	1155	村田 克巳	政治経済研究部会の研究経過報告	1	3
		1156	国松 久弥	市街地の土地利用と地代機構	4	21
		1157	細田 繁雄	都市道路交通の価格決定	22	37
		1158	山村 順次	熱海における温泉観光都市の形成と機能	38	72
		1159	古川 勝信	サービス経済の発達と都市化現象	73	95
		1160	永田 元也	都市基盤乗数理論の展開	96	112
		1161	藤村 通	都市財政序説—日本における地方財政の成立事情—	113	121
		1162	大久保 達正	荻生徂徠の都市—江戸—批判	122	137
		1163	吉村 五郎	中共新党章の解明	138	147
		1164	呉 守禮	台湾に於ける漢語學研究の現状	148	160
23	19700630	1165	安部 宙之介	「白樺」の詩	1	45
		1166	坂本 政親	山川登美子の家系	46	65
		1167	平岡 敏夫	『破戒』私論	66	104
		1168	田所 周	明治三十年代の新聞—家庭小説	105	119
		1169	小泉 浩一郎	白鳥とダンテ—「ダンテについて」をめぐる—	120	135
		1170	佐伯 梅友	然る故を推量する「らむ」を用いた歌について	136	146
		1171	武石 彰夫	「巨山景」と「鹿山景」をめぐる—鎌倉社寺と宴曲—	147	176
24	19710228	1172	吉村 五郎	中華人民共和国二十年史概説	1	24
		1173	蔵居 良造	中国共産党政権とその政策路線	25	50
		1174	富山 栄吉	中国の対外貿易、二十年の推移	51	72
		1175	明野 義夫	中国経済の発展	73	123
		1176	土井 章	中国経済成長過程での政治的経済的諸問題	125	184
		1177	井上 博二	M・ウェーバーの「中国的人間」理解について —現在の中国的人間像の理解への試論とも関連させて—	185	215
25	19710320	1178	中平 栄一	経営分析に関する若干の問題 —ホテル業の経営分析についての基礎的問題—	1	14
		1179	岩崎 庄一	経営診断序説	15	33
		1180	藤井 誠一	マイヤーの財務諸表分析論	35	57
		1181	矢島 文夫	セルーヤ著『アラブの思想』邦訳への補注	59	74
		1182	向後 良文	経営管理分析に関する一考察—価値的管理を中心として—	(1)	(13)
		1183	鈴木 孝明	海運経営合理化分析	(15)	(40)
26	19720310	1184	山崎 道夫	吉田松陰の七生説と宋学の理気論 付説—山田方谷の楠中将論と楠公七生伝序—	1	42
		1185	鬼頭 有一	細井平洲の人と思想(三)	43	75
		1186	中村 宏	大須賀篤軒の生涯 附・「新文詩」とその作家	77	103
		1187	和田 正俊	藤田東湖の回天詩史に付て	105	119
		1188	渡部 信治郎	飯島忠夫博士「日本儒学関係書簡」	121	151
		1189	倉田 信靖	日本儒学史体系への序説—日本思想の形成とのかかわりに於て—	153	164
		1190	市野澤 寅雄	古詩平仄論の伝承について(中)	165	199
27	19720310	1191	井上 博二	M・ウェーバーの「都市論」の視点と方向について—その方法論の探索—	1	18
		1192	岩崎 庄一	都市とレジャー産業—ボウリング場をめぐる問題点—	19	57
		1193	永田 元也	都市大量交通無料論とその問題点	59	80
		1194	高橋 梵仙	『猿澤往來』—解題・本文・註—	81	97
		1195	藤村 通	戦後の地方財政の確立事情	99	106
		1196	大久保 達正	荻生徂徠の都市政策について	107	118
		1197	村田 克巳	都市化の政治に及ぼす影響—東松山市長選挙をめぐる—	(1)	(25)
		1198	鈴木 孝明	明治前期都市工業経営の発達過程—主として東京と大阪を中心にして—	(27)	(61)
		1199	前川 邦生	地方農協と首都圏農協の役割—合併時点を中心として—	(63)	(77)
		1200	藤井 誠一	都市病院経営の問題点—財務分析的視点を中心として—	(79)	(102)
		1201	加藤 瑛子	大正10年代に於ける農村出身工場労働者に関する一考察	(103)	(124)

『東洋研究』論文総目録 (2024年7月31日現在)

巻号	発行年月日	分類番号	著者	論文	頁開始	頁終了
28	19720630	1202	栗本 弘	70年代のアジア経済—若干の展望—	1	31
		1203	井上 博二	M・ウェーバーの「アジア論」とその「知識人層」の位置づけ—現代アジアにも関係づけて—	33	58
		1204	小林 多加士	70年代の国際政治と中国の文化大革命	59	83
		1205	伏見 楚代子	世界経済統合化と第三世界のナショナリズム—開発理念の変遷—	85	119
		1206	瀬尾 秀彰	アジア、アフリカの統合と分裂—国際政治における極の流動化現象—	121	149
		1207	安 夢弼	東学革命と日清戦争	151	180
		1208	黄 旭初	台湾の経済	181	199
		1209	清水 乞	インド芸術学考—その成立と展開—	(1)	(26)
29	19720901	1210	吉村 五郎	孫文自伝略解	1	26
		1211	土井 章	中国の二本足政策とその作用—社会主義経済の一つの在り方—	27	61
		1212	明野 義夫	中国の国民所得および国民総生産について	62	74
		1213	富山 栄吉	中国経済の一断面—鉱産資源と開発政策—	75	93
		1214	蔵居 良造	国際共産主義運動の総路線のなかに占める文化大革命の位置	94	113
		1215	野口 正之	台湾語の系統とその歴史	114	137
30	19730220	1216	萩谷 朴	三卷本枕草子章段設定私攷	1	54
		1217	武石 彰夫	仏教歌謡資料としての「弾傷褒真抄」	55	80
		1218	須田 哲夫	宴曲「伊勢物語」のこころ	81	89
		1219	渡瀬 昌忠	柿本人麻呂の『歌集』—その書名について—	90	114
		1220	鏡 光昭	「驢鞍橋と臨濟録」に関する一考察	115	140
31	19730228	1221	安部 宙之介	独歩の詩「たき火」と小説「たき火」	1	20
		1222	坂本 政親	独歩文学の倫理性—『独歩集』『運命』を中心に—	21	39
		1223	小泉 浩一郎	『欺かざるの記』私論—実存的生命感の追求を中心に—	40	61
		1224	田所 周	「武蔵野」素描	62	81
		1225	小内一明	日本霊異記に関する論文三種—麦菴遺稿「日本霊異記註釋」覚書補記—	82	122
32	19730330	1226	宇野 雪村	游相本蘭亭考	1	35
		1227	足立 豊	二つの「謝賜御書詩表」	37	48
		1228	玉村 清司	王升草書千文—孫過庭草書千字文との比較—	49	90
		1229	永井 敏男	墨蹟—五山僧を中心として—	91	98
		1230	西林 昭一	刻本『書譜』とその周辺	99	156
33	19730901	1231	山崎 道夫	吉田松陰の教育と其の精神の根源	1	13
		1232	中村 宏	山雨樓詩文鈔と鴻雪爪	15	25
		1233	鬼頭 有一	細井平洲の「詩経古伝」—偽書の中の真実—(細井平洲の研究四)	27	37
		1234	阿部 吉雄	日本文化のなかの李退溪	39	44
		1235	宇野 精一	日本近代儒学の意義	45	50
		1236	原田 種成	宋代史年表(北宋)補訂(上)	51	86
		1237	武石 彰夫	兼好歌集に見る顕密圏	87	109
		1238	萩谷 朴	清紫二女のあいだ	111	127
		1239	平岡 敏夫	『寄生木』論おぼえ書き—日露戦後文学ノートの1—	129	154
		1240	松井 如流	書と刻石とその展開	155	161
		1241	栗本 弘	アジアの経済開発戦略と価値観	163	196
		1242	土井 章	中国の巨大性経済基盤のもつ損益評価	197	221
		1243	永田 元也	中国の連合運輸をめぐる諸問題—中国型協同輸送の特質—	223	240
		1244	たかはし・ぼんせん	「けかつ」 “飢渴もの”考	241	297
1245	竹田 志郎	アメリカ・ダイナミックスの分析(その1) —American Jewsの行動特性を支える諸条件の分析—	299	314		
1246	小尾 毅	アメリカ・ダイナミックスの分析(その2) —ビジネス・ビヘイビアの研究—その風土論的理解に関する覚書—	315	333		
1247	河野 一英	アメリカ・ダイナミックスの分析(その3)—(研究発表)—	335	344		
34	19730630	1248	矢島 文夫	アラビア哲学の資料的研究(1) —アル・キンディーとアル・ファーラービー—	1	28
		1249	菅野 亮子	東アフリカにおけるインド人の問題	29	55
		1250	早川 勲	インド会社法(1)—現行法の概要と1969年改正法—	56	94
		1251	井上 博二	M・ウェーバーにおけるアジアの合理性と非合理性	95	131
		1252	安 夢弼	韓国統一問題とその展望	132	161
		1253	村田 克巳	韓国における政治変動	162	194

『東洋研究』論文総目録 (2024年7月31日現在)

巻号	発行年月日	分類番号	著者	論文	頁開始	頁終了
35	19740130	1254	遠藤 潔	いわゆる「階段論」試論1	1	40
		1255	三上 英俊	予想価格と現実価格	41	58
		1256	長谷川 啓之	経済成長とインフレーション—理論と現実—	59	100
		1257	佐藤 順一	貨幣主義者と構造主義者のインフレ論争について	101	125
		1258	石橋 春男	単純成長モデルにおけるインフレーションの考察	(127)	(140)
36	19740320	1259	河野 一英	経営のための哲学的方法に関する一考察	1	18
		1260	竹田 志郎	「多国籍企業論」の分析視角—生成要因の分析と関連して—	19	40
		1261	藤井 誠一	国際課税の諸問題	41	69
		1262	河野 一英	アメリカダイナミクス(その4)	71	84
		1263	浦郷 義郎	マーケティング理論の科学性に関する問題点(その1)	(1)	(11)
		1264	岩崎 庄一	国際経営コンサルタント会議の動向と 欧米における経営コンサルタント事情	(13)	(35)
37	19740520	1265	藤村 通	九分利付外国公債始末考	1	12
		1266	加藤 瑛子	明治十年代前半期の岡田良一郎に見る一豪農の経済論	13	36
		1267	高橋 梵仙	人口随録—日本人口史之研究ノート—	37	49
		1268	石垣 信浩	19世紀前半ドイツ機械工業の経営構造	51	85
38	19740530	1269	土井 章	日中間の格差要因と今後の両国経済の在り方	1	26
		1270	江頭 数馬	中国型社会主義の発生と形態に関する一考察	27	44
		1271	吉村 五郎	毛沢東論	45	60
		1272	小林 多加士	批林・批孔の根本的視座	61	75
		1273	明野 義夫	中国における食糧問題の動向	76	92
		1274	富山 栄吉	日中経済関係の新潮流	93	123
		1275	島村 博道	シンガポール華語概要	125	171
39	19750110	1276	土井 章	経済協力についての再検討	1	59
		1277	栗本 弘	アジアの経済開発とインフレ	61	83
		1278	鈴木 直二	アジアにおける農業問題	85	105
		1279	立田 三也	日中経済成長過程の対比	107	135
		1280	早川 勲	インド会社法(2)—経営機構の改革と法規整の変遷—	137	164
		1281	鈴木 直二	[書評] 斎藤一夫氏著「米穀経済と経済発展」 —アジアの米作国の経済発展に関する研究—	165	168
40	19750410	1282	藤野 岩友	楚辞の近江奈良朝の文学に及ぼした影響	1	28
		1283	萩谷 朴	枕草子三巻本は是非か—池田説の吟味の上に立って—	29	57
		1284	武石 彰夫	台密修験の和讃	59	87
		1285	市野澤 寅雄	古詩平仄論の傳承について(下)	89	111
		1286	中嶋 敏	北宋徽宗朝の夾錫錢について	113	130
		1287	原田 種成	宋代史年表(北宋)補訂(下)	131	147
		1288	内山 知也	※大東文化大学図書館蔵周作人自筆「解放後訳著書目」「知堂年譜大要」 および書簡<紹介>	149	157
		1289	麓 保孝	現代と儒学—(シンポジウム)—	159	181
		1289	宇野 精一	現代と儒学—(シンポジウム)—	159	181
		1289	阿部 吉雄	現代と儒学—(シンポジウム)—	159	181
		1289	山崎 道夫	現代と儒学—(シンポジウム)—	159	181
		1289	酒井 忠夫	現代と儒学—(シンポジウム)—	159	181
		1289	原田 種成	現代と儒学—(シンポジウム)—	159	181
		1289	村松 剛	現代と儒学—(シンポジウム)—	159	181
1289	倉田 信靖	(司会)現代と儒学—(シンポジウム)—	159	181		
1290	[既刊本紹介]	大東文化大学東洋研究所既刊本紹介	(1)	(7)		
41	19750630	1291	斎藤 一夫	マレーシア経済の近況と問題点	1	24
		1292	井上 博二	M・ウェーバーの「宗教社会学」の意味とアジア諸宗教の位置 —アジアへの一つの視座—	25	58
		1293	伏見 楚代子	オイルマネーと経済開発—サウディ・アラビア—	59	88
		1294	矢島 文夫	ヨーロッパとイスラム—『イスラムの遺産』新版刊行によせて—	89	106
42	19751030	1295	江頭 数馬	社会主義工業化計画の中国化の考察	1	18
		1296	蔵居 良造	「批林批孔」の論理と政治	19	45
		1297	富山 栄吉	中国の対外貿易と石油資源	46	62
		1298	明野 義夫	中国の対外貿易と国際価格	63	75
		1299	小林 多加士	中国の新憲法と法家思想—プロレタリア階級独裁と大衆参加—	76	91
		1300	吉村 五郎	中国語学概論	92	132
		1301	[叢書案内]	東洋研究所1975年度刊行叢書近刊案内	133	135

『東洋研究』論文総目録 (2024年7月31日現在)

巻号	発行年月日	分類番号	著者	論文	頁開始	頁終了
43	19760315	1302	栗原 圭介	兩隣禮制考	1	56
		1303	市野澤 寅雄	古詩韻範の問題	57	80
		1304	河崎 孝治	墨翟と兼愛	81	102
		1305	宮坂 正昭	東南アジアにおける初期のイスラーム化(1)―史実と伝承の間―	103	146
44	19760820	1306	中村 宏	詩に於ける処士の謳歌―岩溪裳川の世界―	1	26
		1307	滝沢 精一郎	鐘馗神	27	75
		1308	鬼頭 有一	細井平洲―述懐十首を中心として見た求道の軌跡―	77	103
		1309	武石 彰夫	静然上人考	105	123
45	19770301	1310	鈴木 直二	日本近世商業史の特徴	1	30
		1311	加藤 瑛子	米券倉庫考	31	68
		1312	たかはし・ぼんせん	續百姓一揆(一)―寛政九年『優臺領騒動記』―	69	99
		1313	土井 章	中国の経済開発と修正主義理論	101	132
		1314	富山 栄吉	“走資派”批判と中国の対外貿易	133	154
		1315	明野 義夫	継続革命と近代化のためのプラント輸入問題	155	173
		1316	蔵居 良造	水滸伝批判研究―鄧小平事件の本質について―	175	197
46	19770510	1317	江頭 数馬	「右傾穢案風」反対闘争―その背景と問題点―	199	228
		1318	藤野 岩友	平安朝の漢詩文に及ぼした楚辭の影響	1	60
		1319	栗原 圭介	禪祀儀禮の原初形態遡源考	61	86
		1320	原田 種成	宋代史年表(南宋)補訂(上)	87	121
		1321	倉田 信靖	羅山・闇齋・藤樹學に於ける排佛容神論の思想史的研究	123	145
		1322	菅野 亮子	アフリカにおける中国の進出	147	163
		1323	近藤 正臣	ミュルダールのアジア研究方法論	165	186
47	19771008	1324	村田 克巳	資料―ビルマ社会主義計画党の哲学―	(1)	(38)
		1325	斎藤 一夫	マレーシアのパーム油産業―その発展・構造および開発論上の含意	1	25
		1326	藤村 通	明治初年の松方日田県政(一)	27	39
		1327	伏見 楚代子	経済発展と国家―ティボール・メンデの援助論と関連して―	41	65
		1328	土屋 正晴	佐久間象山論―活文禪師の交遊とその展開―	67	85
		1329	土井 章	監修 魏晉新學與佛教思想問題的研究	87	115
		1330	吉村 五郎	中国共産党史―結党から建国まで―	117	149
48	19780201	1331	岩永 博	A・ハーフィズとS・ジャディード―シリア軍事政権の一考察―	(1)	(40)
		1332	鈴木 直二	[書評] 柚木学氏編「諸国御客船帳」	<1>	<5>
		1333	土井 章	日本の基礎条件の変化と国際関係	1	62
		1334	富山 栄吉	中国の鉄鋼業にみる生産推移の問題点	63	78
		1335	明野 義夫	中国貿易の変遷と特長	79	97
		1336	江頭 数馬	文化大革命終結段階の路線闘争	99	110
		1337	蔵居 良造	中国共産党における組織原則の諸問題 ―十一全大会の党規約改正を中心に―	111	132
49	19780301	1338	山崎 道夫	李退溪の行実の二三 付説―退溪と直方	1	36
		1339	原田 種成	宋代史年表(南宋)補訂(中)	37	58
		1340	土屋 正晴	信州松代藩佐久間象山の和歌について―歌風の特徴と和歌観の考察―	59	81
		1341	広瀬 正雄	広瀬淡窓について(講演要旨)	83	91
50	19780620	1342	藤村 通	民部省時代の松方正義の財政政策	1	16
		1343	大久保 達正	幕末期における松方正義についての一考察	17	31
		1344	西江 錦史郎	洋式農場の経営について―松方千本松農場の場合―	33	49
		1345	たかはし・ぼんせん	萬歳蝶	51	61
		1346	鈴木 孝明	三井合名会社の成立と益田孝『欧米出張復命書』	63	96
51	19781020	1347	加藤 瑛子	[書評] 鈴木直二著『徳川時代の米穀配給組織』	97	101
		1348	土井 章	中国社会主義発展過程の諸問題と四つの現代化 ―文化革命の評価と中国社会主義の在り方―	1	42
		1349	永田 元也	中国における輸送構造について―貨物輸送に関する各国との比較―	43	61
		1350	山田 準	通商面からみた中国外交の底流―中国貿易の対日傾斜の過程―	63	80
		1351	岡崎 邦彦	内政面から見た中国外交の底流	81	115
		1352	張 庸吾	同文同種について	117	129
1353	鈴木 直二	[書評] 原田俊夫、原田一郎著、 『現代マーケティング―その流通機構と運営―』	131	137		

『東洋研究』論文総目録 (2024年7月31日現在)

巻号	発行年月日	分類番号	著者	論文	頁開始	頁終了
52	19790130	1354	明野 義夫	華国鋒体制下の主要経済政策課題	1	22
		1355	富山 栄吉	中国の農業機械化にみる新ビジョン	23	38
		1356	河合 俊三	中国をめぐる国際関係の発展メモ―その一、アヘン戦争とその意義―	39	49
		1357	笹川 正博	中東紛争の文化的要因について	51	74
		1358	井上 博二	M・ウェーバーの『古代ユダヤ教』でのイスラエルとエジプト―その関係構造の歴史的特質―	75	109
		1359	村田 克巳	ニュージーランドの政治	111	151
		1360	木村 英一	[書評] 栗原圭介著『中国古代楽論の研究』	153	157
53	19790320	1361	川口 久雄	絵解きの源流と物語絵の展開	1	37
		1362	栗本 弘	インドの民間外資政策	39	75
		1363	斎藤 一夫	スリランカの経済と農業	77	110
		1364	高橋 昭一	近代化の挫折―オスマン帝国の場合―	111	138
		1365	吉宗 宏	英国の「東南洋」に対する経済協力―1970年までのコロombo・プランを中心として―	(1)	(37)
		1366	河野 六郎	呉方言における咸撰一等重韻の扱い方について	(39)	(63)
		1367	エドゥイ・ヘルマツ	インドネシア語とマレーシア語の違いの実際	(65)	(83)
54	19790920	1368	藤村 通	租税頭松方正義と海関税問題	1	26
		1369	武石 彰夫	梁塵秘抄注釈考	27	50
		1370	鈴木 直二	日本の総合商社―機能と多国籍企業化―	51	81
		1371	吉村 五郎	中共革命の核心―土地問題の解決と農村における階級成分の区分―	83	136
		1372	たかはし・ぼんせん	『救荒兪孫訓』について	137	173
		1373	原田 種成	宋代史年表(南宋)補訂(下)	175	204
55	19791220	1374	河合 俊三	EMS(欧州通貨制度)の設立をめぐる西欧通貨外交の新展開	1	23
		1375	村田 克巳	ニュージーランドの政治組織の構造的特徴	25	71
		1376	広瀬 崇子	対外政策決定過程における文化的制約―日印の比較研究―	73	101
		1377	栗原 圭介	享宴儀禮の賦詩における民族的特性	103	132
		1378	岡田 宏二	宋代華南における非漢民族の諸相―洞庭湖以南を中心として―	133	160
		1379	鈴木 直二	[書評] 郭明仁著「台湾における米穀流通の研究」―米肥バーター制度を中心に―	161	164
		1380	井上 博二	M・ウェーバーでの古代ユダヤ教とカルヴィニズム―近代化への精神的系譜の視点から―	(1)	(35)
56	19800120	1381	中嶋 敏	刊行の辞		
		1382	土井 章	謝辞		
		1383	土井 章	中国における価値法則をめぐる諸問題	1	33
		1384	蔵居 良造	中国近代化建設路線確立の理論軌跡	35	63
		1385	江頭 数馬	中国の過渡期論修正と経済管理体制	65	82
		1386	明野 義夫	中国の経済調整政策について―第五期全国人民代表大会第二回会議―	83	112
		1387	富山 栄吉	八十年代にむけた中国の対外貿易―政府借款と合弁をめぐる問題―	113	134
		1388	吉村 五郎	鄧小平を主題とした中共走資派論	135	157
		1389	永田 元也	詹天佑と中国鉄道(その一)	159	170
		1390	遠藤 宏	中国の近代化における農産物価格の形成決定機構	171	245
		1391	栗本 弘	土井章と日中和平工作	247	262
		1392	土井 章	中国と私の五十年の生活	263	314
		57	19800330	1393	川口 久雄	鳳樓の風鐸―敦煌窟龕造成資料ノート(続)―
1394	川口 久雄			※潘重規教授「變文雙恩記校録」について	47	52
1395	潘 重規			『變文雙恩記』校録	53	91
1396	高橋 保			ベトナム戦争最盛期(1964～72)のインドシナ諸国における政治権力構造	93	132
1397	山田 準			十五世紀におけるアジア通商交渉―東アジアを中心に―	133	161
1398	岡崎 邦彦			中国知識分子論序説(一)「八党大」およびその前後の知識分子問題―	163	221
1399	張 庸吾			わが思い出―初遊日本・その1―	223	251
1400	吉宗 宏			新嘉坡の歴史的社会的諸条件と華人系住民との関係―今後の新嘉坡の在り方について―	(1)	(35)
58	19801220	1401	江頭 数馬	中国の政治、経済改革の基本構造	1	22
		1402	明野 義夫	中国の集団所有制企業の再評価	23	42
		1403	吉村 五郎	李大釗革命史略(一)	43	66
		1404	河合 俊三	ハリマン満鉄買取計画挫折の国際的背景	67	79
		1405	井上 博二	M・ウェーバーにおけるイスラミズム―その宗教社会学的視界からの試論的考察―	81	112
		1406	村田 克巳	ニュージーランドの二党制	113	148
		1407	[東研総目次]	東洋研究総目次	(1)	(18)

『東洋研究』論文総目録 (2024年7月31日現在)

巻号	発行年月日	分類番号	著者	論文	頁開始	頁終了
59	19810120	1408	斎藤 一夫	ニュージーランドの酪農業—現状と将来—	1	31
		1409	鈴木 直二	日本近代化と現物地代制	33	61
		1410	藤村 通	明治二〇年代前半期の公債政策—公債資金による鉄道網の拡充—	63	91
		1411	鈴木 孝明	明治初期三菱海運会社の投資政策	93	137
		1412	西江 錦史郎	大野川通船紛争をめぐる日田商人の役割	139	177
		1413	吉宗 宏	太平洋における日本の将来の地位	(21)	(47)
		1414	[東研総目次]	東洋研究総目次	(1)	(19)
60	19810210	1415	川口 久雄	敦煌風雅—中央アジアのうた—	1	70
		1416	栗原 圭介	古代中国における新年祭の原始心性論	71	97
		1417	武石 彰夫	崑崙山の歌謡	99	122
		1418	土屋 正晴	佐久間象山詩に現われた詩語について—陶淵明の関連からの一考察—	123	136
		1419	[東研総目次]	東洋研究総目次	(1)	(25)
61	19810320	1420	土井 章	中国の農業増産措置と生産責任制—「第二の土地改革」の展開—	1	25
		1421	永田 元也	詹天佑と中国鉄道(その二)	27	40
		1422	富山 栄吉	中国の現代化における当面する問題点	41	60
		1423	山田 準	大航海地代への背景	61	86
		1424	岡崎 邦彦	中国知識分子論序説(二)—知識分子の思想改造への展開—	87	121
		1425	[東研総目次]	東洋研究総目次	(1)	(25)
62 ・ 63 ・ 64	19820220	1426	中嶋 敏	刊行の辞	I	
		1427	大久保 達正 永田 元也	東洋研究所の源流—東洋研究所の二十周年に当って—	III	xxii
		1428	明野 義夫	中国の国民経済の再調整と問題点	1	23
		1429	河合 俊三	日露戦争前における中国をめぐる国際関係	25	38
		1430	川口 久雄	敦煌窟龕造成資料ノート 続貂	39	83
		1431	栗原 圭介	春秋時代における民族主義を繞って	85	120
		1432	笹川 正博	アラブ情勢の政治的、文化的不安定要因について	121	145
		1433	辰巳 正明	依興歌論	147	177
		1434	富山 栄吉	中国の現代化における当面する問題点(その二)	179	195
		1435	中嶋 敏	靈渠考	197	229
		1436	西江 錦史郎	豊前国宇佐郡久兵衛新田の成立	231	260
		1437	福田 俊昭	敦煌本類林残巻の研究(其一)	261	290
		1438	藤村 通	明治二十年代後半期の公債政策	291	314
		1439	俣野 太郎	論語にみえる諸弟子の記述 第一(上)—子夏と子張—	315	354
		1440	村田 克巳	二つの国歌を持つニュージーランド	355	382
		1441	森田 右一	防衛体制再編成の予算について	383	411
		1442	渡瀬 昌忠	万葉集における和歌の分類と配列—天地人の三才分類について—	413	440
		1443	井上 博二	ウェーバーの理論図式とイスラム —B. S. ターナーの所説での制度的側面を中心に—	(1)	(27)
		1444	上野 恵司	魯迅小説中の動詞および形容詞の語彙史的考察	(29)	(54)
		1445	栗本 弘	韓国における外国資本	(55)	(86)
		1446	香坂 順一	中国語における語構成の問題	(87)	(107)
		1447	河野 六郎	方音雑考	(109)	(124)
		1448	宮田 一郎	蘇洲語の文法	(125)	(148)
1449	吉宗 宏	シンガポールの近代化についての—考察 —工業化と人民行動党の連動作用—	(149)	(174)		
1450	[機関誌総目録]	機関誌 東洋研究総目録	(1)	(20)		
1451	[単行本総目録]	東洋研究所出版単行本総目録	(20)	(21)		
65	19830131	1452	栗原 圭介	古代農耕漢民族における自然崇拜と其の禮的對應	1	33
		1453	中嶋 敏	広西桂林思想埭運河小考	35	47
		1454	福田 俊昭	敦煌本類林残巻の研究(其二)	49	76
		1455	俣野 太郎	論語にみえる諸弟子の記述 第一(下)—子夏と子張—	77	125
		1456	井上 博二	ウェーバーの法理論と『韓非子』の法思想—一つの試論として—	(1)	(33)
		1457	上野 恵司	魯迅小説語彙の研究	(35)	(59)
		1458	香坂 順一	近世中国語の“得”	(61)	(88)
		1459	宮田 一郎	蘇洲語の文法(II)	(89)	(112)
		1460	[機関誌総目録]	『東洋研究』総目録	(1)	(21)
		1461	[単行本総目録]	東洋研究所出版単行本総目録	(21)	(22)

『東洋研究』論文総目録 (2024年7月31日現在)

巻号	発行年月日	分類番号	著者	論文	頁開始	頁終了
66	19830210	1462	加藤 瑛子	明治期における米穀流通過程の形成に関する一考察	1	35
		1463	金井塚 良一	比企地方の古代窯業生産の研究(一)―和名埴輪窯址群の発掘調査―	37	72
		1464	川口 久雄	『真福寺本 文鳳鈔』の系統と美意識の構造	73	89
		1465	鈴木 康之	連語研究の発達	91	113
		1466	辰巳 正明	古代日本文学史に関する覚書―和歌と漢文学―	115	145
		1467	西江 錦史郎	化政期天領代官の思想と政策	147	187
		1468	兵頭 徹	日田県における金札貸下げと旧幕府御預け金の始末	189	211
		1469	藤村 通	明治三〇年代前半の財政政策―地租増徴と日本興業銀行設立事情―	213	239
		1470	森田 右一	関東大震災火災の財政金融措置	241	278
67	19830301	1471	明野 義夫	中国における経済管理体制改革の課題 (薛暮橋教授の若干の論文を中心として)	1	25
		1472	江頭 数馬	中国の改正憲法における経済体制	27	37
		1473	岡崎 邦彦	中国知識分子論序説(三)―整風、鳴放運動における知識分子―	39	89
		1474	土井 章	毛沢東の継続革命についての検討	91	124
		1475	富山 栄吉	中国の「対外開放」政策の課題	125	150
		1476	広瀬 崇子	第三次印パ戦争におけるインドの政策決定 ―国内統一の諸問題と国際紛争―	151	188
		1477	村田 克巳	ボージョウ・ネ・ウィン―軍人政治家の思想と行動―	189	223
		1478	岡倉 古志郎	非同盟理念の形成上の一過程としてのバンドン会議 ―非同盟運動成立史論序説(その2)―	(1)	(29)
		1479	吉宗 宏	シンガポールの近代化と社会開発―生存戦略の方程式―	(31)	(59)
68	19831215	1480	川口 久雄	敦煌出土の『俗講儀式』と略出因縁諸本―わが國説話文學とのかかわり―	1	26
		1481	栗原 圭介	古代中国後期の「禮」における儒教と道教との融合について	27	60
		1482	鐵井 慶紀	中国古代神話傳説にみられる聖と俗の対立についての一試論	61	86
		1483	松本 照敬	外教による佛教批判の一事例	87	113
		1484	岡倉 古志郎	非同盟の論理と倫理におけるアジア的なものについての一考察	115	146
		1485	ウァン・タオ	川本邦衛(訳)ベトナム社会主義共和国における歴史研究について 《研究会講演要旨》	147	157
		1486	[総目録]	『東洋研究』総目録	(1)	(22)
		1487	[総目録]	東洋研究所出版単行本総目録	(23)	(24)
69	19840215	1488	ハルトムト・オ・ロームント	口をして鼻の如くにせよ―ことわざによる東西文化事問ひ (大東文化大学創立60周年記念講演要旨)―	1	34
		1489	辰巳 正明	近江荒都歌論	35	68
		1490	成田 守	防長の盲僧	69	95
		1491	福田 俊昭	敦煌本類林殘卷の研究(其三)	97	125
		1492	門脇 廣文	陸機<擬古詩十二首>考	127	156
		1493	香坂 順一	《水滸傳》に見られる副詞	(1)	(33)
		1494	宮田 一郎	蘇洲語の文法(Ⅲ)	(35)	(59)
		1495	上野 恵司	魯迅『祝福』注釈ノート	(61)	(80)
		1496	ウイリアム・ゼ・ボト・ア・ト・ペリ	新儒教の教育と東アジアの現代化 〔(英文)Neo-Confucian Education and Post-Confucian East Asia〕	(81)	(92)
70	19840301	1497	富山 栄吉	中国の「対外開放」政策の課題(そのⅡ)	1	25
		1498	徐 邦男	戦後台湾における言論統制の実態と出版の現状	27	57
		1499	村田 克巳	ネ・ウィン・ビルマ国軍創設とその政治的性格	59	90
		1500	奥野 保男	アジア関係会議について―非同盟運動の源流に関する一考察―	91	118
		1501	菅野 亮子	アフリカの自己主張―パン・アフリカニズムと非同盟への道―	(1)	(26)
		1502	吉宗 宏	スリランカ風土の基本的条件についての研究	(27)	(68)
		1503	山田 準	オランダの平戸におけるジャンク船艦装について	(69)	(96)
71	19840330	1504	西江 錦史郎	豊後国国東郡呉崎新田の成立	1	19
		1505	兵頭 徹	廃藩置県と地方の前期的商業資本―日田県の掛屋商人資本を中心として―	21	46
		1506	俣野 太郎	論語にみえる諸弟子の記述 第二(上)―顔淵と子貢―	47	85
		1507	岡田 宏二	唐末五代宋初湖南地域の民族問題 トウチョ ―とくに彭氏の系譜と土家族との関係を中心として―	87	132
		1508	古島 和雄	彭湃と農民革命(一)	133	158
		1509	栗本 弘	低開発国開発三〇年の軌跡	159	197
		1510	井上 博二	Weberにおける「東アジア」と「西アジア」 ―『儒教と道教』・『古代ユダヤ教』による比較社会史―	(1)	(28)

『東洋研究』論文総目録 (2024年7月31日現在)

巻号	発行年月日	分類番号	著者	論文	頁開始	頁終了
72	19840730	1511	江上波夫	日本における国家の形成 —倭人の国から大和朝廷へ— 《大東文化大学創立60周年記念講演》	1	35
		1512	門脇 廣文	陶淵明研究ノート—「讀山海經」第一首〈頗迴故人車〉の解釋について	37	65
		1513	栗原 圭介	禮構造に見る「社」の形成に至る類型志向	67	111
		1514	鐵井 慶紀	中国古代神話伝説と思想—対立と統一について—	113	140
		1515	松本 照敬	中世インドにおける一元論者と二元論者の対論 —ラーマヌジャによるサーンキヤ哲学批判—	141	177
		1516	香坂 順一	《水滸傳》に見られる副詞(二)	(1)	(18)
73	19850121	1517	佐藤 武敏	敦煌発見のいわゆる唐水部式残巻について	1	32
		1518	西江 錦史郎	「塩谷郡代の新田開発と協力者」	33	92
		1519	兵頭 徹	松方正義の滞欧期における経過と分析 —谷謹一郎『明治十一年滞欧日記』を中心として—	93	120
		1520	俣野 太郎	論語にみえる諸弟子の記述 第二(中)—顔淵と子貢—	121	181
		1521	レオン・ウ・アンテ・ルメルシュ	古代中国における親族構造と国家構造(講演記録)	(1)	(22)
		1522	宮田 一郎	《海上花列伝》の言語	(23)	(44)
1523	上野 恵司	《四世同堂》を聴く—普通話の実態(動詞・形容詞編)—	(45)	(71)		
74	19850228	1524	村田 克巳	アジア社会党会議—第三世界の非同盟中立主義への一日程として—	1	40
		1525	斎藤 一夫	1950年代の南および東南アジア経済(その一)	41	65
		1526	奥野 保男	エジプトにおける非同盟政策の形成について	67	93
		1527	岡崎 邦彦	中国知識分子論序説(四)—反右派闘争期における知識分子—	95	147
		1528	岡倉 古志郎	「平和五原則」成立の経緯について—T. N. カウルの回想録に依拠して—	(1)	(28)
		1529	吉宗 宏	スリランカにおけるソロモン・バンダラナイケの歴史的位と役割	(29)	(53)
		1530	菅野 亮子	アフリカ植民地解放におけるイギリスの立場	(55)	(78)
1531	山田 準	17世紀初期の貿易船について	(79)	(99)		
75	19850320	1532	土井 章	現代社会における真実の追求と歴史の見直し —中国の諸問題を側面にみて—	1	51
		1533	明野 義夫	中国における経済管理体制改革の課題(その二)	53	70
		1534	岡田 宏二	ヤオ 瑶族の族源に関する一試論	71	116
		1535	成田 守	『敦煌類書残巻』の一考察	117	131
		1536	進藤 英幸	敦煌本無名類書残巻考—Pelliot2621<Recto>釋文(上)—	133	146
		1537	福田 俊昭	敦煌本類林残巻の研究(其四)	147	173
		1538	鈴木 康之	抽象名詞の語彙的な意味のありかたについて	175	202
		1539	辰巳 正明	懐風藻の自然鑑賞	203	229
1540	井上 博二	ウェーバー宗教論にみる隣人愛と『墨子』の兼愛 —愛の歴史的比較文化社会学の試み—	(1)	(32)		
76	19851030	1541	栗原 圭介	周禮「天官」篇形成における時間論	1	34
		1542	鐵井 慶紀	中国古代の昭穆制度発生についての一試論 —中国的思惟との関連において—	35	62
		1543	土井 章	現代社会における分業性と「総業」性 —社会主義の相対性とその自由主義との相関々係—	63	126
		1544	古島 和雄	彭湃と農民革命(二)	127	150
		1545	渡瀬 昌忠	万葉集における和歌の分類と配列(二)—天地人の三才分類について—	151	197
		1546	香坂 順一	《水滸傳》に見られる副詞(三)	(1)	(34)
		1547	松本 照敬	被限定者不二—元論派綱要書の研究(1)—YatIndramatadIpika解説—	(35)	(56)
		1548	広瀬 崇子	インドの政治発展と国家統一—ひとつの欧米理論批判—	(57)	(80)
77	19860131	1549	遠藤 光正	『源平盛衰記』に引用の漢籍の典拠(一)	1	29
		1550	福田 俊昭	敦煌出土の『籙金』と『無名類書』	31	63
		1551	俣野 太郎	論語にみえる諸弟子の記述 第二(下)—顔淵と子貢—	65	136
		1552	兵頭 徹	松方財政の源流について —日田県政期における金札・藩札問題を中心として—	137	163
		1553	森田 右一	田尻稻次郎の財政学	(1)	(18)
78	19860225	1554	永野 慎一郎	イギリスの太平天国政策(上)—1858年6月~1860年10月—	1	23
		1555	明野 義夫	中国における経済管理体制改革の課題(その三) —価格改革と賃金改革を中心として—	25	47
		1556	井上 博二	Weberのカリスマ論と新中国(序編)—1949年をめぐる諸事情とその後—	(1)	(34)
		1557	宮田 一郎	文学作品の言語と方言(I)	(35)	(59)
		1558	上野 恵司	《四世同堂》を聴く(二)—普通話の実態(名詞編)—	(61)	(80)
1559	大原 信一	中国語にはいった日本語	(81)	(101)		

『東洋研究』論文総目録 (2024年7月31日現在)

巻号	発行年月日	分類番号	著者	論文	頁開始	頁終了
79	19860320	1560	佐藤 武敏	井上(檜原)陳政とその中国研究	1	44
		1561	斎藤 一夫	1950年代の南および東南アジア経済(その二)	45	71
		1562	奥野 保男	国連に見る南北関係	73	100
		1563	土生 長穂	チトーとアジア・アフリカ	101	123
		1564	喜田 昭治郎	中国と「バンドン会議」—中国外交に関する一試論—	125	154
		1565	古田 元夫	ベトナム共産主義者と「緊張緩和」—1954～55年を中心に—	155	179
		1566		岡倉古志郎研究員教授 年譜略および業績目録	181	194
80	19860731	1567	栗原 圭介	周王朝における王権の構造	1	36
		1568	鐵井 慶紀	中国古代神話伝説と思想—殷始祖契の生誕モチーフと生成論—	37	64
		1569	遠藤 光正	『源平盛衰記』に引用の漢籍の典拠(二)	65	95
		1570	香坂 順一	《水滸傳》に見られる副詞(四)	(1)	(32)
		1571	松本 照敬	被限定者不二—元論派綱要書の研究(2)—YatIndramatadIpika解説—	(33)	(55)
81	19870215	1572	永野 慎一郎	イギリスの太平天国政策(中)—1861年1月～12月—	1	30
		1573	岡倉 古志郎	天心とベンガルの革命家たち —『東洋の覚醒』における天心のインド観をめぐって—	(1)	(45)
		1574	エド・イ・ヘルマン	ミナハサ文化について—華人とミナハサ人姓氏(名)との比較—	(47)	(65)
		1575	吉宗 宏	スリランカにおけるシリマボ・バンドラナイケの歴史的位置と役割	(67)	(86)
		1576	山田 準	17世紀貿易船における職種名について	(87)	(108)
82	19870228	1577	土井 章	事物運動法則の絶対性と事物の相対性—ものの見方と問題解決の仕方—	1	55
		1578	遠藤 光正	山本梅崖の見た日清戦争後の中国—『燕山楚水紀遊』を中心として—	57	88
		1579	西江 錦史郎	天領四日市掛屋萬屋渡辺家研究 一	89	98
		1580	兵頭 徹	明治十五年、前田正名の欧米貿易視察について(一) —谷謙一郎『報告書翰記録帳』を中心として—	99	129
		1581	大原 信一	30年代中国の文章	(1)	(13)
83	19870320	1582	明野 義夫	中国の第七次五ヵ年計画と経済管理体制改革 —とくに価格改革と賃金改革を中心として—	1	24
		1583	喜田 昭治郎	要人の相互交流状況からみた中国外交	25	63
		1584	濱 久雄	中国思想に占める公羊学の地位	65	94
		1585	井上 博二	Weberのカリスマ論と新中国(本編1)—1949年をめぐる諸事情とその後—	(1)	(48)
		1586	菅野 亮子	コモンウェルス(英連邦)の変遷と人種問題(アパルトヘイト)	(49)	(76)
84	19870805	1587	栗原 圭介	禮體系に於ける「終始」の概念—古代漢民族の一思考類型として—	1	43
		1588	濱 久雄	『春秋公羊伝』に見える思想類型	45	88
		1589	福田 俊昭	類林考	89	120
		1590	渡瀬 昌忠	万葉集における和歌の分類と配列(三)—第七・十・十一撰者の物象分類—	121	151
		1591	松本 照敬	被限定者不二—元論派綱要書の研究(3)—YatIndramatadIpika解説—	(1)	(17)
85	19880130	1592	鐵井 慶紀	図象と思想—伏羲女媧図(一)	1	45
		1593	加治 明	雲南傣族の上座部仏教—西双版纳地域を中心に—	47	75
		1594	遠藤 光正	『源平盛衰記』に引用の漢籍の典拠(三)	77	104
		1595	兵頭 徹	明治十五年、前田正名の欧米貿易視察について(二) —谷謙一郎『報告書翰記録帳』を中心として—	105	136
		1596	森田 右一	松方財政を支えた田尻・阪谷の業績	(1)	(21)
86	19880301	1597	岡田 宏二	宋代広南西路における辺防体制	1	35
		1598	篠田 隆	インドの牛・水牛構成と家畜経済(中間報告)	37	68
		1599	平松 圭子	丁玲の短編小説(1931—1941)に見られる語彙について	(1)	(14)
		1600	宮本 久義	『リグ・ヴェーダ』に見られる時間意識	(15)	(31)
		1601	エド・イ・ヘルマン	バンドゥン市の協天宮(関帝廟)について	(33)	(56)
87	19880331	1602	遠藤 光正	『源平盛衰記』に引用の漢籍の典拠(四)	1	28
		1603	井上 博二	Weberのカリスマ論と新中国(本編2)—1949年をめぐる諸事情とその後—	(1)	(36)
		1604	香坂 順一	《水滸傳》に見られる能願動詞	(37)	(60)
		1605	山田 準	「近世日欧交渉史の研究」(1)—東洋を指すイベリア両国—	(61)	(81)

『東洋研究』論文総目録 (2024年7月31日現在)

巻号	発行年月日	分類番号	著者	論文	頁開始	頁終了
88	19881120	1606	村田 克巳	まえがき—中華人民共和国成立に対する近隣諸国の対応共同研究会報告—	I	IV
		1607	[目次]	目次	V	VIII
		1608	喜田 昭治郎	I 中国建国初期の外交政策—アジア政策を中心として—	1	27
		1609	村田 克巳	II 中華人民共和国成立に対するビルマの対応	29	62
		1610	浦野 起央	III 小国ネパールの外交政策—中国とインドの狭間で—	63	118
		1611	永野 慎一郎	IV 中華人民共和国成立に対する朝鮮半島の対応	119	153
		1612	田川 一巳	V マラヤ華僑と新中国のはざまのマラヤ共産党	155	187
		1613	エド・イ・ヘルマン	VI 中華人民共和国成立前後のインドネシアと現地の華僑	189	231
		1614	林 理介	VII スカルノの二大対外闘争と中国との関係 —インドネシアの民族主義と地域的覇権主義—	233	296
		1615	岡崎 邦彦	VIII 1950年代の日中関係	297	337
		1616	近藤 正臣	IX 中華人民共和国成立の経済的影響 —バドゥン会議経済委員会の討議を通して—	339	369
		1617	広井 大三	[資料] <月表> X 中華人民共和国の成立と近隣の対応 —その衝撃の1カ月—	371	411
		1618		村田克巳教授略歴	413	420
1619	ブライアン・ブリッジス	XI 1949年中国革命、マレー半島の反応 (英文) THE 1949 CHINESE REVOLUTION: THE REACTION ON THE MALAYAN PENINSULA	(1)	(21)		
89	19881201	1620	土井 章	事物運動の法則としての集中と分散の循環	1	76
		1621	栗原 圭介	夏小正に見る思想的展開—特に古代中国の原始農耕的思維について—	77	113
		1622	成田 守	艶笑譚目録	115	142
		1623	岡倉 古志郎	非同盟の本質について	(1)	(25)
		1624	脇田 武光	堺市の産業と土地経済から見た地域研究	(27)	(75)
90	19890120	1625	濱 久雄	伊藤東涯の易学	1	31
		1626	兵頭 徹	松方の紙幣整理期における貿易政策—大蔵卿時代の建議書を中心として—	33	58
		1627	大原 信一	五四白話文と欧化語法(一)	(1)	(12)
		1628	松本 照敬	被限定者不二—元論派綱要書の研究(4)—YatIndramatadIpika解説	(13)	(35)
		1629	山田 準	「近世日欧交渉史の研究」(2)—オランダ進出の背景—	(37)	(55)
91	19890301	1630	鐵井 慶紀	図象と思想—伏羲女媧図(二)—	1	28
		1631	遠藤 光正	『源平盛衰記』に引用の漢籍の典拠(五)	29	53
		1632	エド・イ・ヘルマン	インドネシアの三宝廟と嘉威山—SyncretismとAssimilationの—考察—	(1)	(26)
		1633	宮本 久義	サーンキヤ哲学における時間概念	(27)	(49)
		1634	上条 紀昭	郭沫若小説戏剧語匯札記(1)	(51)	(75)
92	19891130	1635	栗原 圭介	古代中国の氏族制度と民族性—特に其の形成過程に於ける思想的展開—	1	47
		1636	鐵井 慶紀	図象と思想—伏羲女媧図(三)—附論 中国古代のウロボロスについて—	49	84
		1637	濱 久雄	黄宗羲の『明夷待訪録』未刊文	85	111
		1638	加治 明	雲南傣族の土着信仰について—披曼と披勐を中心に—	113	144
		1639	岡田 宏二	南宋高宗時代広南西路における馬政—南宋時代広南西路の馬政研究(上)—	145	189
93	19900131	1640	古島 和雄	中国の農業改革と郷規民約	1	20
		1641	岡田 宏二	南宋孝宗以降広南西路における馬政の展開 —南宋時代広南西路の馬政研究(下)—	21	63
		1642	岡崎 邦彦	大躍進・調整・七千人大会(一)	65	94
		1643	兵頭 徹	大正期初頭における「正貨問題」とその対策(一) —松方正義の非募債主義を中心として—	95	127
		1644	松本 照敬	被限定者不二—元論派綱要書の研究(5)—YatIndramatadIpika解説—	(1)	(23)
		1645	山田 準	「近世日欧交渉史の研究」(3)—日蘭通商関係樹立への経緯—	(25)	(47)
94	19900228	1646	中嶋 敏	孟太后征西考	1	23
		1647	渡瀬 昌忠	万葉集における和歌の分類と配列(四) —人麻呂歌集「寄物陳思」部の物象分類—	25	52
		1648	遠藤 光正	『源平盛衰記』に引用の漢籍の典拠(六)	53	80
		1649	成田 守	光国寺由来縁記	81	104
		1650	浜口 俊裕	花山法皇奉射事件	105	142
		1651	鐵井 慶紀	図象と思想(1) 神(2) 電・雷(3) 龍について	143	168
		1652	大原 信一	五四白話文と欧化語法(二)	(1)	(12)

『東洋研究』論文総目録 (2024年7月31日現在)

巻号	発行年月日	分類番号	著者	論文	頁開始	頁終了
95	19900331	1653	遠藤 光正	長屋王の詩歌とその創作時期について	1	29
		1654	俣野 太郎	論語にみえる諸弟子の記述(第三の上)―子路のばあい―	31	58
		1655	村田 克巳	ソ連邦英雄になったリヒアルト・ゾルゲ	59	91
		1656	三尾 忠志	レー・ズァンの社会主義革命論の特徴 ―その階級闘争論の特徴についての考察―	(1)	(27)
		1657	井上 博二	WeberとHsuの比較社会論 ―中国のクラン・インドの カースト・アメリカのクラブについての所説を中心に―	(29)	(75)
		1658	エデ・イ・ヘルマツ	インドネシア華人の暦と伝統行事	(77)	(102)
96	19900925	1659	栗原 圭介	春秋時代に於ける農政の理念形成について	1	41
		1660	福田 俊昭	楼蘭文書の発見	43	62
		1661	岡倉 古志郎	民族問題の歴史的考察	63	88
		1662	富山 栄吉	対外開放政策の当面する問題点	89	105
		1663	遠藤 光正	『源平盛衰記』に引用の漢籍の典拠(七)	107	131
97	19910130	1664	土井 章	第一次新民主主義革命と国共合作―中国社会主義と毛沢東思想の研究(一)―	1	72
		1665	大原 信一	梁啓超の新文体と徳富蘇峰(その一)	73	94
		1666	岡崎 邦彦	大躍進・調整・七千人大会(二)―経済調整政策の展開―	95	136
		1667	近藤 正則	程明道・程伊川における『孟子』の受容と衍義	137	165
		1668	成田 守	『助説因縁集』について(一)	167	190
98	19910228	1669	加治 明	ベトナム・タンホア地方の紅タイ族の宗教について	1	27
		1670	兵頭 徹	大正期初頭における「正貨問題」とその対策(二) ―『正貨吸収二十五策』の分析を中心として―	29	57
		1671	三尾 忠志	ベトナムにおける工業化の所与条件 ―小規模、分散的生産が普遍的な構造についての分析―	(1)	(43)
		1672	エデ・イ・ヘルマツ	インドネシア現地人と華人のタブー	(45)	(72)
		1673	篠田 隆	アームダバード市自治体の清掃部門と清掃労働者	(73)	(121)
99	19910325	1674	谷口 房男	王守仁と少数民族について―とくに十家牌法をめぐって―	1	20
		1675	俣野 太郎	論語にみえる諸弟子の記述(第三の中)―子路のばあい―	21	49
		1676	岡崎 邦彦	海南省経済特区成立と現状の諸問題(上)―海南省経済特区の成立―	51	74
		1677	井上 博二	Weberのアジア宗教・社会論での異端 ―ヨーロッパ中世ローマ教会秘蹟論争の正統・異端と関連づけて―	(1)	(41)
		1678	松本 照敬	被限定者不二一元論派綱要書の研究(6)―YatIndramatadIpika解説―	(43)	(59)
		1679	崔 元喆	韓国経済の史的分析	(61)	(85)
100	19911125	1680	遠藤 光正	従軍作家より見た戦争と平和―独歩と花袋の観戦記を中心にして―	1	25
		1681	兵頭 徹	廢藩置県後における掛屋商人の家政改革―日田・掛屋広瀬家を中心として―	27	54
		1682	山田 準	16世紀における英・蘭の東洋進出	(1)	(18)
		1683	吉宗 宏	東南アジアにおける諸国連合とインドネシア	(19)	(49)
		1684	岡崎 邦彦	1989年海南省民主化運動の展開と梁湘の失脚 ―海南省の成立と現状の諸問題(中)―	(51)	(77)
		1685	[機関誌総目録]	東洋研究論文総目録	1	37
		1686	[著者索引]	東洋研究著者索引	39	45
101	19911225	1687	栗原 圭介	地官司徒に於ける征賦の構造と科擧思想(上)	1	37
		1688	福田 俊昭	王起の伝記	39	59
		1689	近藤 正則	王安石の文学観―初期の「志常在民」の詩をめぐって―	61	87
		1690	成田 守	『助説因縁集』について(二)	89	113
		1691	大原 信一	清末における白話の提唱と実践	(1)	(20)
		1692	平松 圭子	『拍案驚奇』の介詞“在”について(2)	(21)	(32)
102	19920131	1693	加治 明	ラオ族の土着信仰について―ラオス地域を中心に―	1	33
		1694	富山 栄吉	「改革・開放」政策の当面する問題点	35	58
		1695	松本 照敬	『ヴェーダールタサングラハ』の研究(1)	(1)	(16)
		1696	エデ・イ・ヘルマツ	インドネシアの漢訳地名について	(17)	(49)
		1697	篠田 隆	尿尿処理人の雇用・労働条件に関わるインド政府諸報告書の研究	(51)	(103)
103	19920325	1698	栗原 圭介	周王朝に見る築城の構想と科擧思想	1	38
		1699	中嶋 敏	偽帝姫考	39	52
		1700	遠藤 光正	渤海国使と菅原道真の唱酬詩	53	87
		1701	土井 章	中国革命とコミンテルン―中国社会主義と毛沢東思想の研究(二)―	89	152
		1702	林 理介	幻想の熱帯社会主義革命 ―東南アジア四国における共産党の消滅とその原因―	153	184

『東洋研究』論文総目録 (2024年7月31日現在)

巻号	発行年月日	分類番号	著者	論文	頁開始	頁終了
104	19920925	1703	栗原 圭介	周王朝の受職に見る「命」の概念	1	54
		1704	成田 守	『奥州仙台女敵討』について	55	78
		1705	遠藤 光正	『源平盛衰記』に引用の漢籍の典拠(八)	79	118
		1706	生田 滋	マリアの御像—キリシタンの教え再考—	119	154
105	19921225	1707	村田 克巳	第三代国連事務総長ウ・タント	1	50
		1708	永野 慎一郎	安昌浩の思想と行動	(1)	(34)
		1709	近藤 正臣	ウォルフ・I・ラデジンスキー—アジアの農業改革に生涯をかけたウクライナ生まれのアメリカ人—	(35)	(77)
		1710	エド・イ・ヘルマツ	インドネシアにおける著名な三華人—葉全明、蕭玉燦、蘇福義—	(79)	(113)
106	19930130	1711	浦野 起央	パキスタン運動の展開と国家形成のジレンマ—土着イデオロギーと国家形成の視点から—	(115)	(207)
		1712	中嶋 敏	南宋建炎対金使節について—宇文虚中のことなど—	1	28
		1713	五十嵐 明宝	『十住毘婆沙論』における菩薩の形態と本質	29	58
		1714	近藤 正則	久米訂斎の思想—「祭祀来格論」と鬼神説—	59	89
		1715	大原 信一	瞿秋白の言語改革論	91	116
		1716	エド・イ・ヘルマツ	インドネシアにおける華人の春節	(1)	(23)
107	19930325	1717	篠田 隆	アーマダバード市自治体清掃部門の雇用政策	(25)	(79)
		1718	遠藤 光正	菅原道真の「叙意一百韻」とその心情の痕跡	1	66
		1719	兵頭 徹	松方日田県政期の租税収納業務と税制改革建議	67	94
		1720	岡倉 古志郎	再び非同盟の本質について	(1)	(33)
		1721	吉宗 宏	スリランカにおける仏教と政治の関わり	(35)	(70)
		1722	山田 準	オランダ東インド会社貿易船の研究	(71)	(93)
108	19930825	1723	松本 照敬	『ヴェーダールタサンクラハ』の研究(2)	(95)	(118)
		1724	成田 守	『奥州仙台女敵討』について(二)	1	42
		1725	栗原 圭介	地官司徒に於ける征賦の構造と科擧思想(下)	43	63
		1726	藏中 しのぶ	『延暦僧録』天皇菩薩伝と護国経典	65	91
		1727	富山 栄吉	「改革・開放」下の中国経済	93	120
109	19940125	1728	エド・イ・ヘルマツ	イ中国交回復後、インドネシアにおける華人の姿勢について	121	148
		1729	土井 章	中国第二次革命期の三冒険主義と毛沢東	1	35
		1730	大原 信一	三〇年代中国の大衆語論争	37	59
		1731	近藤 正則	久米訂斎の「理」の哲学—「性全体論」及び「命説」を中心として—	61	87
		1732	浜口 俊裕	新出の冷泉家本『能宣集下巻』について	89	116
110	19940225	1733	加治 明	ラオ族の靈魂観と招魂儀礼—ラオスのラオ族を中心に—	117	141
		1734	遠藤 光正	『源平盛衰記』に載録の漢籍と引用章句の用法について	1	38
		1735	兵頭 徹	日田県農民騒動の経済的発生要因	39	67
		1736	松本 照敬	『ヴェーダールタサンクラハ』の研究(3)	(1)	(24)
		1737	岡倉 古志郎	核兵器廃絶と非同盟運動	(25)	(49)
		1738	山田 準	オランダ東インド会社のアジアへの航海	(51)	(72)
		1739	岡崎 邦彦	毛沢東と七千人大会(1)—大躍進・調整・七千人大会—	(73)	(93)
111	19940325	1740	吉宗 宏	スリランカの政治・経済問題について	(95)	(123)
		1741	原田 種成	『幕末明治海外体験詩集』匡謬	1	63
		1742	宮本 久義	聖地カイルアス巡礼の宗教的背景と実態	(1)	(23)
		1743	篠田 隆	ネパール・タライの開発と水利組合—チャッティース・マウジャ水利組合史—	(25)	(51)
		1744	岡崎 邦彦	毛沢東と七千人大会(2)—大躍進・調整・七千人大会—	(53)	(82)
112	19940825	1745	馬 宏偉	中国人の「忍」について—内容・方式・限度—	(83)	(104)
		1746	成田 守	螺女房譚について	1	17
		1747	藏中 しのぶ	『南天竺婆羅門僧正碑并序』と入竺求法高僧伝—『梁高僧正』「訳経」篇の受容と大安寺の華嚴教学—	19	49
		1748	松本 照敬	『ヴェーダールタサンクラハ』の研究(4)	(1)	(27)
		1749	内田 知行	山西省の日本軍占領地区におけるアヘン管理政策	(29)	(54)
113	19941125	1750	山田 準	オランダ東インド会社のアジアからの帰路航海(1)	(55)	(72)
		1751	中嶋 敏	南宋海將李寶事蹟	1	17
		1752	近藤 正則	程伊川における「勇」の解釈と衍義—宋代『孟子』と受容史の視点から—	19	43
		1753	福田 俊昭	『注好選』所引の『文場秀句』考	45	58
		1754	浜口 俊裕	『彦火火出見尊絵巻』の海幸山幸譚について	59	98
		1755	遠藤 光正	讃州時代の菅原道真と「寒早十首」	99	128
		1756	村井 信幸	永寧土司の政治支配組織	(1)	(23)

『東洋研究』論文総目録 (2024年7月31日現在)

巻号	発行年月日	分類番号	著者	論文	頁開始	頁終了
114	19941220	1757	大原 信一	梁啓超と日本語	1	12
		1758	富山 栄吉	「改革・開放」政策下の中国経済(そのⅡ)	13	38
		1759	兵頭 徹	明治初年の日田県における掛屋仲間	39	67
		1760	ケヴィン・ニュート (岡倉 古志郎訳)	フランク・ロイド・ライトと岡倉天心： 社会的および美的“東洋の理想”をめぐって	(1)	(36)
		1761	瀬戸口 律子	琉球官話課本《広応官話》の言語	(37)	(54)
		1762	徳植 勉	民族問題としての華人社会の変容について	(55)	(70)
115	19950125	1763	村田 克巳	ミャンマー軍事政権をめぐる問題	1	39
		1764	永野 慎一郎	日本の在日朝鮮人政策と日朝関係	(1)	(32)
		1765	エド・ヘルマツ	インドネシア華商の対中投資について	(33)	(54)
		1766	篠田 隆	インド・グジャラート州の小規模工業と経営者	(55)	(76)
		1767	岡崎 邦彦	毛沢東と七千人大会(3)―大躍進・調整・七千人大会―	(77)	(98)
		1768	平松 圭子	老舎の解放後の戯曲の言語―『方珍珠』『龍鬚溝』『茶館』について―	(99)	(116)
116	19950825	1769	遠藤 光正	渤海国使王孝廉と『文華秀麗集』	1	31
		1770	栗原 圭介	『周禮』に於ける基礎理念と科學思想	33	58
		1771	中嶋 敏	寶祐登科録における宗室	59	72
		1772	成田 守	『奥州仙台女敵討』について(三)	73	98
		1773	藏中 しのぶ	わが国初期僧伝の基盤―『梁高僧伝』『論』『賛』の受容と大安寺―	99	128
		1774	松本 照敬	『ヴェーダールタサングラハ』の研究(5)	(1)	(23)
		1775	山田 準	オランダ東インド会社のアジアからの帰路航海(2)	(25)	(47)
117	19951220	1776	小林 春樹	『史記』・『漢書』・『後漢書』における天道観、天人(相関)関係観、 運命観、歴史観の特色について―『後漢書』研究の予備的考察として―	1	22
		1777	大谷 光男	後漢・三国時代の都郷侯、都亭侯について	23	53
		1778	五十嵐 明宝	仏教の論書における正定聚・不退転の内容と展開	55	83
		1779	兵頭 徹	明治初年の日田県における銭札発行について	85	113
118	19960125	1780	村田 克巳	イギリス諜報謀略網との戦い	1	46
		1781	青木 信治	モンゴル国の社会構造の転換と国民意識の変化	(1)	(23)
		1782	村井 信幸	永寧土司支配領域における社会制度	(25)	(48)
		1783	徳植 勉	中国開放政策とシンガポール―南洋大学問題を中心として―	(49)	(67)
		1784	篠田 隆	インド・グジャラート州の経営者とカースト(Ⅱ) ―南グジャラート商工会議所名簿分析―	(69)	(86)
119	19960225	1785	富山 栄吉	「改革・開放」政策下の中国経済(そのⅢ)	1	24
		1786	李賢恵 (金井塚 良一訳)	三韓の対外交渉体系	25	52
		1787	中堂 幸政	中東・北アフリカの「水」問題―イスラムと砂漠化と石油―	(1)	(24)
		1788	平松 圭子 劉 力	『女店員』の言語について	(25)	(35)
		1789	岡崎 邦彦	毛沢東と七千人大会(4)―大躍進・調整・七千人大会―	(37)	(58)
120	19960725	1790	栗原 圭介	周禮夏官の設立と理念形態	1	30
		1791	藏中 しのぶ	奈良朝漢詩文における玄奘三蔵伝の受容について ―長安西明寺と漢文伝述作の場・大安寺―	31	48
		1792	岡倉 古志郎	バンドンからカルタヘナまで―第3世界40年間の歩み―	(1)	(25)
		1793	松本 照敬	『ヴェーダールタサングラハ』の研究(6)	(27)	(51)
		1794	山田 準	イースト・インディアマンの研究(1)―構造と乗船者―	(53)	(73)
121	19961125	1795	五十嵐 明宝	浄土教における正定聚と不退転について	1	26
		1796	成田 守	稚児物語について	27	49
		1797	遠藤 光正	良寛詩に引用の漢詩文について	51	79
		1798	西江 錦史郎	寛政の教化政策と地方儒学	81	101
		1799	兵頭 徹	日清戦後財政と松方正義(一)	103	127
122	19961220	1800	濱 久雄	文人としての康有為―その詩文と書について―	1	31
		1801	近藤 正則	「蘇氏易解」における朱子の蘇軾批判のモチーフをめぐって	33	59
		1802	大谷 光男	高麗史の「月星接近」記事について―日本の史料との関連において―	61	76
		1803	小林 春樹	後漢時代における「合理的」暦法の成立とその歴史的背景 ―「東観人土」の活動を中心として―	77	100
		1804	岡倉 登志	二つのエチオピア戦争と日本―大アジア主義者を中心に―	(1)	(24)

『東洋研究』論文総目録 (2024年7月31日現在)

巻号	発行年月日	分類番号	著者	論文	頁開始	頁終了
123	19970125	1805	大原 信一	中国の新民主主義革命期に刊行された新三字経について	1	28
		1806	中嶋 敏	明代進士登科録考	29	35
		1807	中村 聡	清末における保守政党の萌芽	37	58
		1808	柴田 善雅	中華匯業銀行小史—合弁銀行の運命	(1)	(33)
		1809	村井 信幸	西南中国のナシ族の神話に現れる竜	(35)	(56)
		1810	岡崎 邦彦	毛沢東と七千人大会(5)—意義と問題点—	(57)	(84)
124	19970725	1811	松本 照敬	仏教文化の受容形態と二十一世紀への展望	1	20
		1812	遠藤 光正	日本に於ける漢字文化の受容と二十一世紀への展望	21	38
		1813	兵頭 徹	明治初年における西洋経済思想の受容過程	39	74
		1814	古島 和雄	社会制度としての「家」と「村」—日本と中国の比較考察の観点より—	75	95
		1815	山田 準	西洋文化の受容形態と21世紀への展望	(1)	(26)
		1816	岡倉 古志郎	フェノロサ=天心関係に見られる東西文化の相互交流(研究ノート)	(27)	(46)
		1817	岡崎 邦彦	改革開放期の日中関係—中国の内政・外交と日中関係—	(47)	(81)
125	19971125	1818	濱 久雄	後漢における公羊学の展開—何休の思想を中心として—	1	25
		1819	山田 春樹	中国古代の曆学における中央集権的性格の確立について	27	47
		1820	中嶋 敏	洪咨夔「大冶賦」	49	75
		1821	大原 信一	中国の識字問題—注音識字と漢字教学—	77	99
		1822	中村 聡	近代中国における宇宙論のとらえ方—康有為におけるその思想的考察—	(1)	(24)
		1823	岡倉 古志郎	フェノロサ=天心関係に見られる東西文化の相互交流(承前)	(25)	(37)
126	19971225	1824	成田 守	沈城譚	1	21
		1825	西江 錦史郎	広瀬旭莊研究(一)系譜と活動	23	49
		1826	大谷 光男	信濃国安曇郡と穂高神社	51	69
		1827	富山 栄吉	「改革・開放」政策下の中国経済(そのIV)—国有企業の株式化加速—	71	92
		1828	片岡 弘次	イクバルの「神への訴え」と「神のお答え」 <small>シクワ シャワーベシクワ</small>	(1)	(28)
127	19980125	1829	栗原 圭介	巨大農耕社会の形成と禮經制度の展開—古代中国に於ける—	1	26
		1830	加治 明	ラオ族(ラオス)の招魂儀礼に関する一側面 —稲作儀礼と新築儀礼を中心に—	27	51
		1831	小坂 眞二	自筆本『御堂関白記』の物忌注記について	53	88
		1832	山下 克明	『承久三年具注曆』の考察	89	118
		1833	平松 圭子 劉力	王朔『給我頂住』の言語について	(1)	(14)
128	19980825	1834	栗原 圭介	歴の宇宙論的思考の神秘と科学思想(漢民族の叡智)	1	31
		1835	松本 照敬	『ヴェーダールタサングラハ』の研究(7)	(1)	(20)
		1836	柴田 善雅	「満州国」金融機関の対市中取引	(21)	(55)
		1837	村井 信幸	ナシ族の神話、伝承に現れる鶏の役割について	(57)	(82)
		1838	山田 準	イースト・インディアマンの研究(2)—オランダからの積載物—	(83)	(102)
129	19981125	1839	濱 久雄	中国経学史における今古文学の思想対立	1	27
		1840	近藤 正則	朱子の王安石批判のモチーフをめぐって	29	48
		1841	遠藤 光正	渤海大使裴頌と嶋田忠臣との贈答詩について	49	76
		1842	成田 守	『明石藩御船歌』について	77	106
		1843	大原 信一	江南製造局翻訳館 訳書事略	(1)	(13)
130	19981220	1844	岡田 宏二	華南における土司制度形成過程に関する一考察 —とくに元より明初に至る時期を中心として—	1	28
		1845	兵頭 徹	日清戦後財政と松方正義(二)	29	52
		1846	多田 博一	インドの州際河川の水利用—カーヴェーリ河水紛争の事例—	(1)	(29)
		1847	吉野 耕造	モンゴルと内蒙古—その同民族異国民間経済関係—	(31)	(51)
131	19990120	1848	富山 栄吉	「改革・開放」政策下の中国経済(そのV) —新展開に入った国有企業改革—	1	22
		1849	内田 知行	改革開放政策下のベトナム交通運輸—陸運・鉄道・内河水運を中心に—	(1)	(43)
		1850	岡崎 邦彦	対中国経済技術協力と問題点—対中国ODAを中心に—	(45)	(77)
		1851	片岡 弘次	詩集『隊商の旅立ちを告げる鈴の音』とイクバル <small>バーンゲ・ダラー</small>	(79)	(103)
132	19990920	1852	栗原 圭介	自然法的形而上學考—古代中国の聖哲—	1	46
		1853	小坂 眞二	安倍泰親の占驗譚をめぐって—火災占の所主、推断法—	47	89
		1854	岡倉 古志郎	天心をめぐるボストンの人々	(1)	(26)
		1855	小林 龍彦	古代日本数学史における重差法の受容について	(27)	(42)
		1856	松本 照敬	『ヴェーダールタサングラハ』の研究(8)	(43)	(61)
		1857	山田 準	イースト・インディアマンの研究(3)—アジアでの活動—	(63)	(87)

『東洋研究』論文総目録 (2024年7月31日現在)

巻号	発行年月日	分類番号	著者	論文	頁開始	頁終了
133	19991125	1858	濱 久雄	『尚書大伝』考	1	26
		1859	山田 春樹	古代中国における「蘭」をめぐる歳事について —「蘭」の薬効性と芳香性を中心として—	27	55
		1860	福田 俊昭	張鷟の伝記	57	77
		1861	兵頭 徹	日清戦後財政と松方正義(三)	79	105
		1862	中村 士	久米栄左衛門通賢の天文測量記録	(1)	(21)
		1863	片岡 弘次	詩集『ガブリエルの翼』とイクバル	(23)	(50)
		1864	田辺 清	絵画にみられる楽器描写—東西の比較を中心に—	(51)	(60)
134	19991225	1865	大原 信一	中国の近代用語事始め—フライヤーと梁啓超の訳書論—	1	10
		1866	富山 栄吉	「改革・開放」政策下の中国経済(そのVI)—四中総に見る国有企業改革—	11	37
		1867	平松 圭子	「月牙兒」の版本比較	(1)	(13)
		1868	柴田 善雅	アジア太平洋戦争期台湾の対外為替決済	(15)	(43)
		1869	岡崎 邦彦	中国の対日政策決定における動揺 —大躍進から経済調整への転換期における周恩来の対日工作—	(45)	(65)
		1870	村井 信幸	摩梭人(永寧納西族)の山神崇拜について	(67)	(95)
135	20000125	1871	新里 孝一	批評の公式—戸坂潤をめぐって—	1	35
		1872	多田 博一	インダス河水系の水利用—ラーヴィー・ピアース河水紛争の背景—	(1)	(31)
		1873	新納 豊	植民地朝鮮における「畜牛改良増殖政策」の数量的検討	(33)	(65)
		1874	篠田 隆	英領インド・アーマダバード県の家畜動向	(67)	(88)
		1875	岡倉 登志	(研究ノート)ラビンドラナート=タゴールにとってのアフリカ —アフリカ観・南アフリカ・エチオピア戦争—	(89)	(110)
136	20000920	1876	栗原 圭介	天官書の形而上學的構想と宇宙原理	1	27
		1877	中嶋 敏	宋金交戦における陳遵の死—史傳變遷試論—	29	45
		1878	岡田 宏二	明朝による「湖広土兵」と「広西狼兵」の調発について —とくに嘉靖年間の「後倭寇」(海寇)対策としての 「以夷制夷」策をめぐって—	47	67
		1879	松本 照敬	ラーマヌジャによるサーンキヤ説への反論(1)	(1)	(21)
		1880	山田 準	イースト・インディアマンの研究(4)—造船・タイプ・船名—	(23)	(39)
137	20001125	1881	濱 久雄	牧野黙庵とその師—菅茶山を中心に—	1	38
		1882	成田 守	鴛鴦譚	39	55
		1883	兵頭 徹	旗本知行所における領主的積金講—松平氏知行上州本町村を中心に—	57	96
		1884	小坂 眞二	六壬式占の古占書について—その佚文集成の試み—	97	135
		1885	田辺 清	東西絵画にみられる狩猟表現	(1)	(10)
138	20001220	1886	福田 俊昭	『朝野僉載』に見えるト筮説話と蛇説話の一考察	1	22
		1887	近藤 正則	『孟子』の經書的定立の時期をめぐって	23	42
		1888	富山 栄吉	「改革・開放」政策下の中国経済(そのVII)—21世紀を準備する新政策—	43	69
		1889	大原 信一	清末の近代用語事始めとしての訳書	(1)	(12)
		1890	平松 圭子	老舎「末一块銭」とC.Y. Lee “Mr. Weng’s Last Forbidden Dollar”	(13)	(24)
		1891	柴田 善雅	華北における興中公司の活動	(25)	(60)
139	20010125	1892	加治 明	雲南傣族の稲作儀礼	1	28
		1893	岡崎 邦彦	21世紀を迎える日中関係—一九〇年代日中の諸問題と中国の対日外交—	29	56
		1894	小林 春樹	三国時代の正統理論について	57	83
		1895	村井 信幸	摩梭人(永寧納西族)の祖先祭祀	(1)	(25)
		1896	篠永 宣孝	1914年前の東アジアに於けるフランス外交政策と銀行資本(上)	(27)	(54)
		1897	多田 博一	インド、ナルマダー河流域開発(1)—ナルマダー河水紛争審判所の裁定—	(55)	(82)
		1898	片岡 弘次	詩集『モーセの一撃』とイクバル	(83)	(103)
140	20010920	1899	福田 俊昭	首陽二子の廉潔をめぐる優劣説話の展開	1	23
		1900	栗原 圭介	天文学論考	25	52
		1901	松本 照敬	ラーマヌジャによるサーンキヤ説への反論(2)	(1)	(21)
		1902	篠永 宣孝	1914年前の東アジアに於けるフランス外交政策と銀行資本(下)	(23)	(58)
		1903	山田 準	イースト・インディアマンの研究(5)—日本来航船—	(59)	(86)
141	20011125	1904	藏中 進	『和名類聚抄』所引『弁色立成』考	1	40
		1905	濱 久雄	牧野黙庵の詩と後半生—天保五年より嘉永二年に至る—	41	83
		1906	成田 守	おなつ蕪甞物語	85	98
		1907	兵頭 徹	幕末期における旗本領主権と知行所村 —松平氏知行上州本町村を中心に—	99	127
		1908	田辺 清	東西風景画における古代の伝統	(1)	(9)

『東洋研究』論文総目録 (2024年7月31日現在)

巻号	発行年月日	分類番号	著者	論文	頁開始	頁終了
142	20011220	1909	岡田 宏二	トゥチャ(土家)族をめぐる中国学界の研究動向について	1	28
		1910	富山 栄吉	「改革・開放」政策下の中国経済(そのⅧ)—規範化される市場経済—	29	56
		1911	大原 信一	五四以降の造語上の諸問題	(1)	(14)
		1912	柴田 善雅	北支那開発株式会社の晩期事業と敗戦処理	(15)	(49)
		1913	岡崎 邦彦	90年代の日中関係	(51)	(80)
		1914	劉 甦朝	毛沢東の生涯と中国社会への影響	(81)	(107)
143	20020125	1915	村井 信幸	摩梭人(永寧納西族)の成年式	(109)	(131)
		1916	遠藤 光正	讃岐守菅原道真の治政とその詩文	1	32
		1917	小坂 眞二	六壬式古占書の伝存状況をめぐって	33	60
		1918	小林 春樹	古代中国の気象観・気候観の変遷と特色	61	92
		1919	大谷 光男	大清乾隆二十七年選日通書(琉球)の暦注(Ⅱ)資料編 —清國・朝鮮の暦注と、その比較—	93	130
		1920	中村 士	東京天文台の発足とアンシャンレジームからの脱却	(1)	(22)
144	20020925	1921	多田 博一	インド、ナルマダー河流域開発(2) —サルダル・サロヴァル・プロジェクト(SSP)反対運動の展開(i)—	(23)	(48)
		1922	福田 俊昭	海を渡った大津皇子の「臨終詩」	1	31
		1923	濱 久雄	牧野黙庵の詩とその交友	33	73
		1924	栗原 圭介	五行の宇宙論的考察	75	110
145	20021125	1925	松本 照敬	ラーマヌジャによるサーンキヤ説への反論(3)	(1)	(32)
		1926	藏中 進	『和名類聚抄』所引『楊氏漢語抄』考	1	37
		1927	濱 久雄	牧野黙庵の時事詩と渡辺崋山との関係	39	69
		1928	大谷 光男	近世の土御門陰陽家の家領について 付、土御門家発行の私札	71	97
		1929	兵頭 徹	幕末開港後における長崎奉行の性格	99	130
146	20021225	1930	田辺 清	素描に見られる東西文化交流	(1)	(9)
		1931	林 理介	「多様性の統一」をめざしたインドネシアの政治哲学 —スカルノイズムの歴史的意義—	1	26
		1932	富山 栄吉	「改革・開放」政策下の中国経済(そのⅨ)—新情勢と“走出去”—	27	50
		1933	柴田 善雅	蘭領ジャワにおける日系農林業の活動—南国産業株式会社を中心に—	(1)	(41)
		1934	岡崎 邦彦	建国半世紀の中国外交(上) —中国外交資料に見る毛沢東・周恩来時代の外交政策—	(43)	(75)
		1935	多田 博一	インド、ナルマダー河流域開発(2) —サルダル・サロヴァル・プロジェクト(SSP)反対運動の展開(ii)—	(77)	(104)
147	20030125	1936	アレクサンドル・セルゲイェビッチ・ジエズニャコフ 由川 稔(訳)	カザフスタン共和国の政治・経済・社会動向の深層 —国民のアイデンティティ形成の模索をユーラシア史および モンゴル史との関係において捉える視点—	(105)	(116)
		1937	小坂 眞二	天文変異現象と陰陽道	1	28
		1938	小林 春樹	『開元占経』に見える「石氏」の説の由来について —正史に引用された逸文との比較を中心とした検討—	29	49
		1939	高 文漢	三島中洲の『論学三百絶』	51	85
		1940	片岡 弘次	ガーリブと年金訴訟	(1)	(15)
		1941	篠永 宣孝	山西(正太)鉄道建設とフランスの外交・金融協力	(17)	(41)
148	20030925	1942	中村 士	江戸後期幕府天文方と地方天文学者の交流—加越地方の事例から—	(43)	(68)
		1943	福田 俊昭	『懐風藻』に見える詠物詩	1	28
		1944	栗原 圭介	史記「八書」の宇宙論的使命と其の創設攷	29	55
		1945	松本 照敬	ラーマヌジャによるサーンキヤ説への反論(4)	(1)	(25)
149	20031125	1946	山田 準	イースト・インディアマンの研究(6)—日本航船(2)—	(27)	(61)
		1947	大谷 光男	推古天皇十一年制定の冠位十二階の五常に関わる問題について	1	24
		1948	成田 守	「雨乞い踊り歌」について	25	65
		1949	兵頭 徹	洋銀引替と長崎奉行岡部長常—『貨幣事件』を中心として—	67	90
150	20031225	1950	濱 久雄	岸上質軒の漢詩と人生—観花聴劍樓小稿を中心として—	91	129
		1951	藏中 進	『和名類聚抄』所引『漢語抄』考	1	37
		1952	小坂 眞二	六壬式占の渉害課と陰陽道	39	74
		1953	岡田 宏二	古代巴史研究序説	75	108
		1954	小林 春樹	「『律曆思想』論」批判 —『漢書』「律曆志」の再検討を中心とした考察—	109	138
1955	岡倉 登志	岡倉天心とボストン・ブラーミンズ(1)—ジョン=ラファージを中心に—	(1)	(25)		

『東洋研究』論文総目録 (2024年7月31日現在)

巻号	発行年月日	分類番号	著者	論文	頁開始	頁終了
151	20040125	1956	富山 栄吉	「改革・開放」政策下の中国経済(そのX)―新段階と若干の理論問題―	1	23
		1957	柴田 善雅	ダヴァオにおける日系マニラ麻栽培業の勃興と1920年代の再編	(1)	(49)
		1958	多田 博一	インド、ナルマダー河流域開発(3) ―サルダル・サロヴァル・プロジェクト(SSP)反対運動の展開(iii)―	(51)	(82)
		1959	劉 甦朝	陳水扁政権時期における中台政治関係	(83)	(105)
		1960	岡崎 邦彦	建国半世紀の中国外交(下) ―中国外交資料に見る鄧小平・江沢民時代の外交政策―	(107)	(132)
152	20040925	1961	福田 俊昭	『和漢朗詠集』の項目の組み立て方	1	29
		1962	中嶋 敏	宋朝権法における鑿類について	31	38
		1963	松本 照敬	ラーマヌジャ思想の研究	(1)	(22)
		1964	山田 準	リーフデ号とスペイン	(23)	(44)
		1965	岡倉 登志	岡倉天心とボストン・ブラーミンズ(2)―ラングドン=ウォーナー―	(45)	(66)
153	20041125	1966	藏中 進	『箋注和名類聚抄』と清朝学術 その一 ―『康熙字典』『佩文韻府』『駢字類編』をめぐって―	1	25
		1967	濱 久雄	岸上質軒の晩年とその漢詩―明治漢詩壇の一断面―	27	63
		1968	遠藤 光正	進鴻溪の詩文を論ず(上)	65	96
		1969	多田 博一	インド、ナルマダー河流域開発(4) ―2000年10月最高裁判所判決後の動向―	(1)	(29)
		1970	田辺 清	東西の肖像画にみられる「心の動き」について	(31)	(42)
154	20041225	1971	兵頭 徹	洋銀引替継続と長崎奉行	1	22
		1972	岡崎 邦彦	中国の中央アジア政策 ―上海協力機構(SCO)設立にみる中国の中央アジア政策―	(1)	(31)
		1973	由川 稔	中央アジア諸国の対外政策と開発戦略(上)	(33)	(58)
		1974	柴田 善雅	南方開発金庫の晩期事業と敗戦後処理	(59)	(89)
155	20050125	1975	小坂 眞二	六壬式占の伏吟課・反吟課と陰陽道	1	32
		1976	大谷 光男	貞享暦法の具注暦(陰陽書)について	33	97
		1977	渡邊 義浩	杜預の春秋長暦について	99	121
		1978	小林 春樹	中国史上における「面縛」の機能と性格、およびそれらの変遷について	123	157
		1979	中村 士	狩野亨吉の天文暦学書蒐集と天文学者平山信との親交	(1)	(36)
156	20050925	1980	福田 俊昭	長屋王の私邸における詩宴詩(上)	1	42
		1981	遠藤 光正	進鴻溪の詩文を論ず(中)	43	71
		1982	小林 春樹	大政翼賛会興亜局編纂の「暦法調査資料」について ―戦時科学史的視点からの暦学研究の試み―	73	105
		1983	松本 照敬	ラーマヌジャ思想の研究(2)	(1)	(20)
		1984	由川 稔	中央アジア諸国の対外政策と開発戦略(下)	(21)	(55)
157	20051125	1985	藏中 進	『箋注和名類聚抄』と清朝学術 その二 ―王念孫『広雅疏証』をめぐって―	1	34
		1986	成田 守	『雨乞謡歌本』について	35	48
		1987	兵頭 徹	海軍省調査課と嘱託の役割(一)―臨時調査課時代と高木友三郎―	49	84
		1988	岡倉 登志	岡倉天心(覚三)とインド(1)―ニヴェディータとの交流―	(1)	(24)
		1989	田辺 清	ラファエッロの素描 ―古典古代の起源と東方―	(25)	(31)
		1990	大杉 由香	視点 経済史研究の現状と将来	(33)	(48)
158	20051225	1991	富山 栄吉	「改革・開放」政策下の中国経済(そのXI) ―第十一次五ヵ年計画期への課題―	1	12
		1992	多田 博一	北インドの横型水車について	(1)	(34)
		1993	上野 英詞	中国の軍事力近代化とアジアの安全保障	(35)	(61)
		1994	岡崎 邦彦	2005年日中関係―4月反日デモ騒動、その経緯と日本の報道―	(63)	(101)
		1995	劉 甦朝	建国初期における農業協同化をめぐるものの 毛沢東と劉少奇の認識と構想についての研究	(103)	(125)
		1996	柴田 善雅	中国関内占領地日系企業の敗戦後処理	(127)	(154)
159	20060125	1997	渡邊 義浩	西晉における國子學の設立	1	23
		1998	濱 久雄	山田方谷の藩政改革とその思想的背景	25	51
		1999	小坂 眞二	六壬式占の十二籌法と陰陽道(一)―神崇の指方の諸社の占定占を巡って―	53	90
		2000	山下 克明	陰陽道の宗教的特質	91	117
160	20060725	2001	福田 俊昭	長屋王の私邸における詩宴詩(下)	1	36
		2002	遠藤 光正	進鴻溪の詩文を論ず(下)	37	67
		2003	山下 克明	陰陽道関連史料の伝存状況	69	116
		2004	松本 照敬	ラーマヌジャ思想の研究(3)	(1)	(24)

『東洋研究』論文総目録 (2024年7月31日現在)

巻号	発行年月日	分類番号	著者	論文	頁開始	頁終了
161	20061125	2005	渡邊 義浩	西晉司馬氏婚姻考	1	26
		2006	藏中 しのぶ	薬師寺「仏足石記」所引「西域伝」攷	27	52
		2007	濱 久雄	荻生徂徠の易学思想	53	79
		2008	藏中 進	『箋注倭名類聚抄』と清朝学術 その三 —一段玉裁『説文解字注』をめぐって—	81	110
		2009	兵頭 徹	海軍省調査課と嘱託の役割(二)—前期高木課長時代と天川勇—	111	145
162	20061225	2010	多田 博一	インドの農産物輸出と外来作物の役割	(1)	(24)
		2011	由川 稔	移行期諸国の自由化と開発(上) —思想史的観点から—	(25)	(46)
		2012	岡崎 邦彦	西安事件後の国共交渉(上) —西安事件70周年—	(47)	(81)
		2013	柴田 善雅	アジア太平洋戦争期中国関内占領地における敵産管理処分	(83)	(109)
		2014	大杉 由香	視点 日本経済史研究の動向	(111)	(125)
163	20070125	2015	小坂 眞二	六壬式占と二十八宿	1	37
		2016	大谷 光男	日本近世の具注曆下段の吉事注について —貞享曆・宝曆曆・寛政曆・天保曆—	39	87
		2017	小林 春樹	元和改曆の性格・特色、および曆学史的意義の再考 —後漢の「合理主義的思想」再考のために—	89	105
		2018	中村 士	遊歴の啓蒙天文家 朝野北水	(1)	(30)
164	20070725	2019	福田 俊昭	『朝野僉載』に見える医薬説話	1	35
		2020	大谷 光男	「信濃国安曇郡の穂高神社」の再考	37	62
		2021	山下 克明	若杉家文書『反閑作法并作法』『反閑部類記』	63	94
		2022	松本 照敬	ラーマヌジャ思想の研究(4)	(1)	(25)
165	20071125	2023	渡邊 義浩	漢魏における皇帝即位と天子即位	1	27
		2024	濱 久雄	大沼枕山の詩風とその詠史詩	29	57
		2025	藏中 進	『箋注倭名類聚抄』と清朝学術 その四 —畢沅『釈名疏証』をめぐって—	59	87
		2026	兵頭 徹	海軍省調査課と嘱託の役割(三) —高木惣吉と大学校研究部—	89	124
		2027	田辺 清	レオナルド・ダ・ヴィンチと東方—《聖ヒエロニムス》をめぐって—	(1)	(13)
		2028	大杉 由香	日本経済史における金融史研究の動向—戦前日本の研究を中心に—	(15)	(26)
166	20071225	2029	栗原 圭介	「祭統」の祭祀に於ける典型的規範の考察	1	17
		2030	多田 博一	カーヴェーリ河水紛争審判所最終命令について	(1)	(26)
		2031	柴田 善雅	戦時日本の株式市場統制	(27)	(59)
		2032	岡崎 邦彦	西安事件後の国共交渉(中)—第2次国共合作交渉の開始—	(61)	(84)
		2033	由川 稔	移行期諸国の自由化と開発(下)—思想史的観点から—	(85)	(111)
		2034	村井 信幸	清代改土帰流時の納西族の社会変化	(113)	(138)
167	20080125	2035	小坂 眞二	『占事略決』の涉害・伏吟・反吟の三課	1	39
		2036	近藤 正則	佐藤一斎をめぐる貶価「陽朱陰王」について	41	67
		2037	遠藤 光正	森鷗外の「航西日記」中の漢詩四十首について	69	97
		2038	小林 春樹	『漢書』の谷永像について	99	123
		2039	中村 士	天球・地球図の新資料「恒星並太陽及太陰五星十七箇之圖」	(1)	(36)
168	20080725	2040	遠藤 光正	成島柳北の「航西日乗」と森鷗外の「航西日記」 —その詩文の類似性について—	1	35
		2041	福田 俊昭	『朝野僉載』に見える識應説話(前編)	37	69
		2042	小林 春樹	『漢書』「外戚伝」の構成について	71	95
		2043	松本 照敬	ラーマヌジャ思想の研究(5)	(1)	(24)
		2044	岡崎 邦彦	西安事件後の国共交渉(下)—杭州会談と廬山会談—	(25)	(57)
169	20081125	2045	藏中 進	「日本国真人贈新羅使薛判官詩序」考	1	18
		2046	近藤 正則	持敬と存養—「言志四録」における程朱学基調の一斑—	19	42
		2047	渡辺 信和	聖徳太子周辺の人物キャラクター —外典の師学習について—	43	66
		2048	兵頭 徹	海軍省調査課と嘱託の役割(四)—ブレーン・トラストの編成—	67	99
		2049	大杉 由香	秋田感恩講に関する一考察—過去の福祉NPOから何を見るか—	(1)	(18)
170	20081225	2050	岡田 宏二	明代華南地域における土司の設置について	1	30
		2051	田辺 清	ルネサンス絵画と中国陶磁器	(1)	(11)
		2052	柴田 善雅	日中戦争期外国為替割当政策の一考察	(13)	(51)
		2053	劉 甦朝	1950年代半ばにおける中国農業協同化運動の展開 —互助組から協同組合への移行についての分岐と論争—	(53)	(85)
		2054	新里 孝一	ケアにおける「動機」の問題	(87)	(111)

『東洋研究』論文総目録 (2024年7月31日現在)

巻号	発行年月日	分類番号	著者	論文	頁開始	頁終了
171	20090125	2055	藏中 しのぶ	三つの鑑真伝—玄奘伝から鑑真伝へ—	1	21
		2056	山下 克明	平安時代初期の政治課題と漢籍—三伝・三史・『劉子』の利用—	23	62
		2057	小坂 眞二	十一世紀代の怪異六壬式占文について(上)	63	109
		2058	相田 満	地震と六国史—キャラクター生成装置としての六国史—	111	133
		2059	中村 士	佐藤一斎の時計研究と幕府天文方との交流	(1)	(26)
172	20090725	2060	大谷 光男	天皇即位の冕服に関わる文献について	1	40
		2061	小林 春樹	『漢書』「元后伝」・「王莽伝」の構成と述作目的	41	68
		2062	福田 俊昭	『朝野僉載』に見える識應説話(後編)	69	95
		2063	岡崎 邦彦	1937年西北善後処理問題(上)—張学良拘束による西安と南京の対立—	(1)	(31)
		2064	松本 照敬	ラーマヌジャ思想の研究(6)	(33)	(56)
173	20091125	2065	藏中 しのぶ	三つの道璿伝—「鑑真伝三部作」における隆尊伝・道璿伝—	1	19
		2066	安保博史	芭蕉句「世にふるもさらに宗祇のやどり哉」考—芭蕉説話化の一道程—	21	38
		2067	兵頭 徹	海軍省調査課と嘱託の役割(五)—各種懇談会・研究会の活動—	39	78
		2068	大杉 由香	日本におけるNPOの現況と問題点—日米比較を通して見えてきた課題—	(1)	(23)
174	20091225	2069	相田 満	六国史のキツネ—その祥瑞と怪異をめぐって—	1	33
		2070	渡邊 義浩	西晋「儒教国家」の限界と八王の乱	35	62
		2071	新里 孝一	ケアと<注意力>—S・ヴェイユをめぐって—	(1)	(26)
		2072	柴田 善雅	第1次大戦期日本政府の戦争海上保険介入	(27)	(62)
175	20100125	2073	濱 久雄	太宰春台の易学思想	1	22
		2074	小坂 眞二	十一世紀代の怪異六壬式占文について(下)	23	64
		2075	山下 克明	陰陽道の特質と関係典籍	65	93
		2076	田辺 清	ルネサンス絵画と中国陶磁器(II)	(1)	(12)
176	20100725	2077	福田 俊昭	『朝野僉載』に見える嘲諷説話	1	40
		2078	小林 春樹	『漢書』帝紀の著述目的—「高帝紀」から「元帝紀」を中心として—	41	63
		2079	兵頭 徹	海軍省調査課と嘱託の役割(六)—海軍に正しい世界観を求めて—	65	101
		2080	松本 照敬	ラーマヌジャ思想の研究(7)	(1)	(23)
177	20101125	2081	成田 守	『御船哥』について	1	29
		2082	安保 博史	几薫俳諧と李白伝説—几薫句「花火尽て美人は酒に身投げけん」考—	31	45
		2083	岡倉 登志	ラビンドラナート・タゴールの思想と行動—タゴール生誕百五十周年によせて—	(1)	(29)
		2084	大杉 由香	戦前日本における火災問題—過去の火災は現在に何を物語るのか—	(31)	(50)
		2085	小湊 浩二	戦後の公的職業訓練制度の確立とその諸問題—日経連と総評の動きから—	(51)	(79)
178	20101225	2086	小坂 眞二	御体御トと陰陽道	1	30
		2087	中村 聡	中国近代化における西欧宣教師の影響—民主思想の紹介—	(1)	(19)
		2088	柴田 善雅	東満洲産業株式会社と周辺会社の活動—「鮮満一体」経営を超えて—	(21)	(64)
		2089	岡崎 邦彦	1937年西北善後処理問題(中)—南京側と西安側の交渉と内戦危機—	(65)	(101)
		2090	齋藤 俊輔	タウンギー王朝とアユタヤ王国の抗争における火器の役割(1498年 - 1605年)	(103)	(126)
		2091	新里 孝一	ケアと<依存>	(127)	(153)
179	20110125	2092	大谷 光男	金印蛇紐「漢委奴国王」に関する管見	1	33
		2093	渡邊 義浩	王莽の革命と古文学	35	60
		2094	池田 雅典	光武帝の圖讖「信奉」	61	83
		2095	高橋 康浩	韋昭『漢書音義』と孫呉の「漢書學」	85	106
		2096	濱 久雄	清代における漢易の展開—惠棟の『易漢学』を中心として—	107	131
180	20110725	2097	福田 俊昭	『朝野僉載』に見える嘲諷説話(前編)	1	27
		2098	小林 春樹	『漢書』の正統観・漢王朝観について—板野長八の理解の再検討—	29	56
		2099	高橋 康浩	韋昭と神秘性—鄭學との関わりを中心として—	57	82
		2100	松本 照敬	ラーマヌジャ思想の研究(8)	(1)	(19)
		2101	瀧口 明子	欧米茶書の中の東洋—シモン・パウリ『煙草・茶論』研究—	(21)	(59)
181	20111125	2102	武田 知己	外務省と知識人 1944—1945 (一)—「ジャポニカス」工作と「三年会」—	1	24
		2103	兵頭 徹	海軍省調査課と嘱託の役割 (七)—国内思想戦と調査課プレーン—	25	58
		2104	岡倉 登志	アメリカ帝国の形成と文化・イデオロギー—アメリカ・フィリピン戦争を中心に—	(1)	(33)
		2105	齋藤 俊輔	ポルトガル領インディアの防衛と総督—1546年の第二次ディウ包囲を事例に—	(35)	(67)

『東洋研究』論文総目録 (2024年7月31日現在)

巻号	発行年月日	分類番号	著者	論文	頁開始	頁終了
182	20111225	2106	安保 博史	芭蕉供養の研究—元禄期を中心として—	1	17
		2107	由川 稔	オユ・トルゴイ、タバントルゴイ、新鉄道等、鉱業関連領域に見る、モンゴル国の市場経済の深化	(1)	(32)
		2108	柴田 善雅	中国関内開港地日系銀行の活動	(33)	(70)
		2109	岡崎 邦彦	1937年西北善後処理問題(下) — 「2・2事件」と三位一体の瓦解—	(71)	(115)
183	20120125	2110	小坂 眞二	十二世紀代の怪異六壬式占文について(一)	1	43
		2111	濱 久雄	礼の起源とその展開—凌廷堪の『礼経积例』を中心として—	45	69
		2112	渡邊 義浩	王莽の官制と統治政策	71	91
		2113	中村 聡	『博物新編』と科学教育	(1)	(20)
		2114	井上 貴子	インド古典芸能の美学とヨーロッパの美学 —カラー、ラサ、バクティ、そしてアートの位置づけをめぐる—	(21)	(49)
184	20120725	2115	福田 俊昭	『朝野僉載』に見える嘲嗤説話(後編)	1	32
		2116	堀池 信夫	『中国自然神学論』の「鬼神」—ライブニッツの朱子解釈—	(1)	(26)
		2117	相田 満	国文学(日本文学)研究におけるデジタル地名辞書の活用の可能性	(27)	(57)
		2118	松本 照敬	ラーマヌジャ思想の研究(9)	(59)	(80)
185	20121126	2119	篠永 宣孝	ロシア革命後の露亜銀行再建の挫折、1917~1926年	(1)	(37)
		2120	滝口 明子	欧米茶書の中の東洋—ボンテクー『茶論』研究—	(39)	(73)
		2121	齋藤 俊輔	ポルトガル領インドとビルマのポルトガル人傭 —ディオゴ・ソアレス・デ・メロの事例を中心に—	(75)	(102)
		2122	林 裕	アフガニスタン農村における現状と意思決定構造	(103)	(120)
		2123	柴田 善雅	南洋興発株式会社の関係会社投資	(121)	(160)
186	2012125	2124	小坂 眞二	十二世紀代の怪異六壬式占文について(二)	1	33
		2125	山下 克明	院政期の大将軍信仰と大将軍堂	35	54
		2126	濱 久雄	明代における来知徳の易学とその影響	55	80
		2127	中村 士	蚕書和解御用の創設とその後の天文方	(1)	(25)
		2128	中村 聡	福澤諭吉と排耶蘇教問題	(27)	(45)
187	20130125	2129	小林 春樹	『漢書』「五行志」における董仲舒の役割	1	18
		2130	武田 知己	外務省と知識人1944-1945(二・完) —「ジャポニカ」工作と「三年会」—	19	49
		2131	岡崎 邦彦	管見「日中国交正常化40周年」 —日中国交正常化とその後日中間の諸問題—	(1)	(31)
		2132	嶋 亜弥子	農村女性リーダーへの職業訓練の展開 —北京市実用技能訓練学校の事例—	(33)	(46)
		2133	大杉 由香	戦前日本における災害の実態 —全国統計を通して見えてきた生存の問題—	(47)	(68)
		2134	小湊 浩二	戦後の公的職業訓練制度の確立とその諸問題(2) —炭鉱離職者と職業紹介・職業訓練—	(69)	(102)
188	20130730	2135	田中 良明	北斗星占小攷	1	32
		2136	福田 俊昭	『朝野僉載』に見える酷暴説話(前編)	33	61
		2137	岡崎 邦彦	西安事変前の中国共産党と蒋介石国民党 —「反蔣」から「逼蔣」への転換と国共合作交渉の決裂—	(1)	(50)
		2138	由川 稔	モンゴル国経済のマクロ的分析 —モンゴル国経済のマクロ的概況と 日本・モンゴル両国関係の基本的動向—	(51)	(99)
		2139	松本 照敬	ラーマヌジャ思想の研究(10)	(101)	(120)
189	20131125	2140	中村 聡	19世紀中国における改革論の段階的変化と在華宣教師	(1)	(18)
		2141	篠永 宣孝	第一次大戦期の中国興業銀行の発展と変容 —事業銀行か預金銀行か—	(19)	(68)
		2142	鏡屋 一	現代中国における「歴史」の再生 —音楽舞踏史詩「東方紅」の場合—	(69)	(96)
		2143	嶋 亜弥子	農村女性リーダーにみる職業訓練の役割 —北京市実用技能訓練学校の事例—	(97)	(109)
		2144	柴田 善雅	「満州国」における日系証券会社の現地化	(111)	(150)
190	20131230	2145	小坂 眞二	六壬式占の十二籌法と陰陽道(二)—神事占の占定占を中心として—	1	51
		2146	濱 久雄	根本羽嶽と信夫怨軒との易学論争	53	76
		2147	細井 浩志	国立天文台本『天文要録』について—旧内閣文庫本の再発見—	77	97
		2148	高橋 康浩	繆襲「魏鼓吹曲」について	99	121
		2149	渡邊 義浩	諸葛亮の外交政策	123	149

『東洋研究』論文総目録 (2024年7月31日現在)

巻号	発行年月日	分類番号	著者	論文	頁開始	頁終了
191	20140125	2150	太谷 光男	太歳庚寅の鉄製大刀について――二〇一一年九月福岡市西区元岡古墳より出土――	1	10
		2151	安保 博史	蘇東坡と芭蕉	11	27
		2152	相田 満	日本の惜字文化	29	50
		2153	石井 寛治	両大戦間期における日本ブルジョアジーのエートレス――軍縮会議と満州事変への対応――	(1)	(19)
		2154	齋藤 俊輔	ディオゴ・ド・コウトのポルトガル帝国論――『老兵との対話(第一の書)』を中心に――	(21)	(45)
		2155	林 裕	紛争影響下社会としてのアフガニスタン農村部――アフガニスタン・カーブル州北方郡部を事例として――	(47)	(67)
192	20140725	2156	岡崎 邦彦	西安事変研究――事変発生と事態の変化――	(1)	(33)
		2157	田中 寛	『満州補充読本』にあらわれた帝国の言語思想と異文化認識	(35)	(67)
		2158	植松 希久磨	中国語における新語の出現と社会的意義――『現代漢語詞典第6版』の語彙を中心に――	(69)	(89)
		2159	南里 浩子	イラン南部・遊牧民定着村の歩み――1963年農地改革前後まで――	(91)	(117)
		2160	小林 春樹	ライデン大学における東アジア研究の歴史と現在――中国学と日本学を中心に――	(119)	(148)
		2161	ジラール フレデリック	『講義要綱』の和譯の問題点――日本に於ける初めての西洋哲学受容と土着信仰に適應の試みに着目して――	(149)	(168)
193	20141125	2162	小坂 眞二	陰陽道の六壬式占 研究余滴(一)	1	38
		2163	濱 久雄	禘祫考	39	63
		2164	福田 俊昭	『朝野僉載』に見える酷暴説話(後編)	65	102
		2165	田中 良明	北宋楊惟徳等撰『景祐乾象新書』諸本管見	103	132
		2166	中村 土、イザベル・田中・ファンクレーン	本木良永が取調べた「限象観星鏡」の謎の解明へ	(1)	(26)
194	20141225	2167	渡邊 義浩	班固の賦作と「雅・頌」	1	23
		2168	小塚 由博	張潮と紅蘭主人の交遊――書簡を手がかりに――	25	59
		2169	岡倉 登志	岡倉覚三(天心)と西洋美術(その1)	(1)	(18)
		2170	齋藤 俊輔	ポルトガル＝アジア間の往来と「登録制度」	(19)	(44)
		2171	エリオット ミルトン	昭和天皇と東京裁判	(45)	(78)
195	20150125	2172	相田 満	日本における幼学書の享受の視点から見た『蒙求』――故事の受容基準をめぐる考察――	1	21
		2173	柴田 善雅	シベリア出兵期対露貿易業者支援策と日露実業株式会社の活動	(1)	(47)
		2174	篠永 宣孝	1920年恐慌と中国興業銀行の危機	(49)	(76)
		2175	中村 聡	最後期の排耶書「防邪訓」の意味するもの	(77)	(93)
		2176	クリスティアンW. シュハック	日独関係史再説――明治時代から昭和前半までの概論――	(95)	(135)
196	20150725	2177	篠田 隆	アンベードカルの「マハール・ワタン」廃止論――ボンベイ世襲的官吏法改定案にみる問題認識と戦略――	(1)	(27)
		2178	田中 寛	戦時下帝国日本の国語・日本語政策の一断面――『教育週報』の掲載記事を例に――	(29)	(68)
		2179	岡崎 邦彦	西安事変と周恩来(上)	(69)	(114)
		2180	ジラール フレデリック	玄奘と日本における禪宗	(115)	(158)
197	20151125	2181	佐藤 信一	『管家後集』「慰二少男女 詩(少き男女を慰むる詩)。」論	1	26
		2182	渡邊 義浩	千寶の『搜神記』と五行志	17	49
		2183	濱 久雄	秦蕙田の礼学思想――『五礼通考』を中心に――	51	75
		2184	相田 満	中国由来の供養から見る日本人の供養観――橋供養を中心に――	77	111
		2185	なかむら つこう 中村 土	東アジア古星図・星表の成立年代の数理的推定	(1)	(30)

『東洋研究』論文総目録 (2024年7月31日現在)

巻号	発行年月日	分類番号	著者	論文	頁開始	頁終了
198	20151225	2186	林 裕	紛争影響下の農村生活の在り様 —アフガニスタンにおける外部者と内部者の視点から—	(1)	(37)
		2187	斎藤 正道	近代イランにおける「国民精神」をめぐる政治的言説の系譜 —イスラーム共和国における「ソフトな戦争」論から、 キャスラヴィーのイラン国民精神批判まで—	(39)	(63)
		2188	篠永 宣孝	中国興業銀行の破綻	(65)	(119)
		2189	柴田 善雅	アジア太平洋戦争期華中占領地における中央諸備銀行の対市中資金割当	(121)	(163)
		2190	岡倉 登志	岡倉覚三(天心)と西洋美術(その2)	(165)	(194)
199	20160125	2191	小林 春樹	『漢書』における「董仲舒像」の一側面 —「董仲舒伝」所引「天人三策」を中心として—	1	62
		2192	福田 俊昭	『朝野僉載』に見える徴應説話(前編)	63	84
		2193	三田 明弘	『太平広記』狐部説話の構成	85	114
		2194	田中 良明	『乾象通鑑』初探	115	136
		2195	植松 希久磨	中国語新語研究「動詞について」 「現代漢語詞典第6版」の語彙を中心として	(1)	(20)
200	20160708	2196	渡邊 義浩	『搜神記』の引用からみた『法苑珠林』の特徴	1	23
		2197	篠永 宣孝	中国興業銀行の支払停止 —BIC救済の挫折—	(1)	(60)
		2198	篠田 隆	インドにおけるカースト・宗教別の経営展開と社会関係資本 —「インド人間開発調査」2011/12年版個票データの分析—	(61)	(100)
		2199	由川 稔	内陸アジア諸国のマクロ経済的発展と新たな国際開発金融の試み	(101)	(149)
201	20161025	2200	福井 重雅	再考・荀子と法家思想	1	25
		2201	中村 菜穂	ミールザーデ・エシュギーにおける政治的ロマン主義の検討 —詩劇『イラン諸王の復活』を中心として—	27	58
		2202	中村 士	伊豆菰山の天文暦学研究家 江川英毅 —天文暦学知識の中央から地方への伝播事例—	(1)	(25)
		2203	植松 希久磨	中国語新語研究「熟語について」 —「現代漢語詞典 第6版」の語彙を中心として—	(27)	(44)
202	20161125	2204	高木 ゆみ子	藤原頼長と音楽—『台記』を中心に(一) 幼少期から大臣大饗まで—	1	35
		2205	小塚 由博	清代文人の琉球に関する記録 —王士禛『紀琉球入太学始末』及びその周辺—	37	66
		2206	濱 久雄	黄以周の礼学思想—『礼書通故』を中心として—	67	91
		2207	岡倉 登志	「アフリカ分割期」のスーダン —マフディー「国家」とヨーロッパ列強(上)—	(1)	(34)
		2208	中村 聡	近代アジアにおける『全體新論』の価値とは何か	(35)	(55)
203	20170125	2209	小林 春樹	『漢書』「王莽伝」の述作目的	1	33
		2210	相田 満	橋の記憶 —幻ではなかった慶長五年竣工の多摩六郷橋—	35	71
		2211	蔵中 しのぶ	女田楽・旦開野の「賛」と「肖像」 —『南総里見八犬伝』第六輯巻頭口絵の「兔」「雀」—	73	113
		2212	伊藤 一彦	中国における朝鮮戦争の再評価	(1)	(30)
		2213	岡崎 邦彦	西安事変と周恩来(中) —事変の和平解決の決定—	(31)	(56)
		2214	柴田 善雅	大連都市交通株式会社の「満洲国」投資	(57)	(113)
204	20170725	2215	山下 克明	式神の実態と説話をめぐって	1	25
		2216	小林 春樹	板野長八の「漢王朝神話」論 再批判	27	48
		2217	渡邊 義浩	千宝の『晋紀』と「左伝体」	49	73
		2218	篠永 宣孝	フランスにおける「勤工儉学」運動と中国興業銀行	(1)	(41)
		2219	田中 寛	大東亜共栄圏下における異言語接触の一断面 —“大東亜語学”と南方日本語普及工作の実態—	(43)	(91)
205	20171130	2220	福井 重雅	『塩鉄論』と『穀梁伝』	1	32
		2221	濱 久雄	顧炎武の易学思想—『日知録』を中心として—	33	57
		2222	中村 士	天文占書中の数値データ検証の試み	(1)	(23)
		2223	中村 聡	宣教師たちは儒教をどう捉えたのか	(25)	(47)
		2224	岡倉 登志	「アフリカ分割期」のスーダン —マフディー「国家」とヨーロッパ列強(下)—	(49)	(79)
206	20171225	2225	相田 満	観相書『神相全編』の日本における受容 —『南総里見八犬伝』の『神相全編正義』享受と併せて—	1	41
		2226	笹生 美貴子	豊子愷訳『源氏物語』における注釈態度 —谷崎潤一郎『源氏物語』(旧訳)の位置づけをめぐって—	43	83
		2227	高木 ゆみ子	藤原頼長と音楽—『台記』を中心に(二) —鳥羽院皇子女誕生をめぐって—	85	117
		2228	中村 菜穂	血の旗を振れ—ミールザーデ・エシュギーの 政治的著述における詩的言語の諸相	119	155
		2229	植松 希久磨	中国語における新語の研究 —現代漢語詞典 第7版の語彙を中心として—	(1)	(23)

『東洋研究』論文総目録 (2024年7月31日現在)

巻号	発行年月日	分類番号	著者	論文	頁開始	頁終了
207	20180125	2230	田中 良明	校本『乾象新書』と『乾象通鑑』に於ける『漢書』の引用	1	29
		2231	柴田 善雅	第1次大戦終結前満洲における日系銀行	(1)	(58)
		2232	嶋 亜弥子 西野 真由	深圳市日系企業における中国人従業員の就業実態と定住意識	(59)	(78)
		2233	岡崎 邦彦	西安事変と周恩来(下) 一周恩来工作と周・蒋会談	(79)	(117)
208	20180925	2234	渡邊 義浩	「史」の文学性——范曄の『後漢書』	1	23
		2235	田中 良明	虹蜺初論	25	52
		2236	篠田 隆	インドにおける食料消費・食習慣の変化と宗教・社会集団 —「インド人間開発調査」個票データの分析—	(1)	(27)
		2237	ソレマニエ 貴実也	ガージャール朝期(1796-1925)における都市化と文化的変化が テヘランの住宅設計と建築様式に与えた影響	(29)	(61)
209	20181125	2238	笹生 美貴子	豊子愷訳『源氏物語』「若紫」巻の注釈態度における一考察	1	34
		2239	篠永 宣孝	岡倉天心の近代化・産業革命観—岡倉天心とウィリアム・モリス—	(1)	(31)
		2240	柴田 善雅	満洲における日系株式取引所の設立	(33)	(78)
		2241	中村 士	天文学者山本一清の「日本理学史会」 —日本科学史学会創立への手掛かり—	(79)	(103)
210	20181225	2242	小坂 眞二	神祇と陰陽道(二)	1	27
		2243	小塚 由博	張潮と王士禛の交遊関係—編集状況を手がかりに—	29	66
		2244	中村 聡	約翰福音書冒頭のロゴスをめぐって —漢訳、日本語訳『聖書』の翻訳とその思想的背景—	(1)	(25)
		2245	林 裕	だれにとつての「リアリティ」なのか —アフガニスタンにおける平和構築と開発援助—	(27)	(40)
211	20190125	2246	相田 満	相書に見る声で定命を知る平安時代の観相譚 —『今昔物語集』巻六第48の延命譚を敦煌文書と比較して分析する—	1	26
		2247	高木 ゆみ子	藤原頼長と音楽 —『台記』を中心に(三) 康治・天養年間—	27	63
		2248	布村 浩一	『詩序集』の「二聯之詩篇」について —絶句か、聯句か、摘句か—	65	91
		2249	中村 菜穂	近代イランの抵抗の歌の起源をめぐって —アーレフ・ガズヴィーニー(1879頃-1934)における 詩的言語についての一考察—	(1)	(33)
212	20190725	2250	渡邊 義浩	漢書学の展開と「古典中国」	1	23
		2251	小林 春樹	荀悦『漢紀』「孝成帝紀」一卷 第二十四の検討 —『漢書』紀十「成帝紀」および他の『漢書』の記述との 比較を中心として—	25	49
		2252	須田 敏彦	バングラデシュ農村における若者の近未来の自画像 —中学生を対象とした進路希望アンケート調査の分析—	(1)	(32)
		2253	植松 希久磨	習近平講話と熟語 —『現代漢語詞典第7版』の語彙を中心として—	(33)	(90)
		2254	出田 恵史	クラシックバレエにおける「身体イメージ」と「鏡」の民族誌的研究 —タイのバレエ団の事例から—	(91)	(135)
213	20191130	2255	濱 久雄	顧炎武の『詩経』観 —『日知録』を中心として—	1	25
		2256	増木 優衣	インド・パンジャブ州におけるダリト問題に関する研究動向	(1)	(25)
		2257	篠田 隆	インド・グジャラート州における牧畜カーストとモビリティ —ラバリー学校の第1次実態調査の事例を中心に—	(27)	(61)
		2258	吉田 雄介	手織物生産から見る遊牧と定住の間 —イラン・チャハルマハール&バフティヤーリー州の事例から—	(63)	(89)
		2259	田辺 清	レオナルド・ダ・ヴィンチと東方(II) —《岩窟の聖母》をめぐって—	(91)	(102)
214	20191225	2260	高橋 あやの	雨占研究序説	1	25
		2261	田中 良明	『漢書』五行志に於ける漢代日食記事	27	48
		2262	相田 満	楊貴妃日本に渡る —遺跡と遺物と伝説と—	49	74
		2263	布村 浩一	句題詩の解釈における諸問題 —「呉江」「秦嶺」を例にして—	75	99
		2264	荒井 礼	蘇曼殊の女性 —自己愛的恋愛—	101	124
215	20200125	2265	松本 公一	密教における香薬テキストについて —『阿婆縛抄』「香薬」を中心に—	1	38
		2266	柴田 善雅	1920年代満洲の日系株式市場	(1)	(49)
		2267	滝口 明子	「トルコ装束の画家」リオータル研究序説 —文化史的考察—	(51)	(75)
		2268	嶋 亜弥子	最近の中国農村出身出稼ぎ労働者の動向に関する一考察	(77)	(93)

『東洋研究』論文総目録 (2024年7月31日現在)

巻号	発行年月日	分類番号	著者	論文	頁開始	頁終了	
216	20200725	2269	高木 ゆみ子	狂歌と出典 —「Trésors de l'estampe japonaise SURIMONO (日本浮世絵版画の至宝 摺物)」における狂歌の翻訳をめぐって—	1	42	
		2270	笹生 美貴子	豊子愷訳『源氏物語』「桐壺」巻の注釈態度 試論	43	77	
		2271	中村 士	啓蒙天学家朝野北水の「文化年間世界地図」 ——仙台漂流民津太夫らの帰国航路を示した世界図の新史料	(1)	(33)	
		2272	由川 稔	ロシアの政治経済思想における「ヨーロッパ」と「アジア」の止揚意識 ～「ユーラシア主義」と「自由」をめぐる諸相(上)～	(35)	(67)	
		2273	田辺 清	再考・レオナルド・ダ・ヴィンチと東方	(69)	(80)	
217	20201125	2274	渡邊 義浩	『隋書』経籍志の史学論	1	23	
		2275	王 宝平	明代漢詩「国比中原国」の作者について	(1)	(16)	
		2276	ソレマニエ 貴実也	カーシャーン市の歴史的住宅と街区に見られる 伝統的空間構成に関する考察	(17)	(48)	
		2277	吉田 雄介	イランにおける多様な敷物消費 —日本からイラン・中東に輸出された 岡山県産ポリプロピレン花むしろを事例に—	(49)	(67)	
		2278	栗山 保之	ルーズナーマの史料価値の分析 —アラブの航海活動研究の予備的考察—	(69)	(100)	
218	20201225	2279	松本 公一	『阿婆縛抄』の近世写本の生成と伝播	1	44	
		2280	布村 浩一	古代日本漢詩における「題」 —本文に先行し、支配するもの—	45	72	
		2281	ジラール フレデリック	『華厳法界観門』の謎について	(1)	(16)	
		2282	相田 満	「生き物供養」と「何でも供養」の日中台 —その共通性と差異の特徴をめぐって—	(17)	(44)	
		2283	岡倉 登志	岡倉天心をめぐる人々 —フェノロサ門下の友人たち(1)—牧野伸顯	(45)	(74)	
		2284	篠田 隆	インド・グジャラート州における牧畜カーストの社会経済変化 —ラバーリー学校の第2次実態調査の事例を中心に—	(75)	(105)	
219	20210125	『虞初新志』 特集号					
		2285	小塚 由博	巻頭言	1		
		2286	小塚 由博	『虞初新志』について	3	45	
		2287	荒井 礼	『虞初新志』にみる張潮の垂流好尚	47	70	
		2288	田中 良明	『虞初新志』書鄭仰田事より見る明末清初の析字	71	99	
2289	今井 秀和	『虞初新志』の日本受容 —昌平齋から鷗外、漱石、露伴まで—	101	128			
220	20210726	2290	藏中 しのぶ	『南総里見八犬伝』の「倚福反転」と「正法眼蔵」 —「無瞳子の画虎」譚と一休宗純・「諸悪莫作、衆善奉行」—	1	30	
		2291	中村 聡	中村敬字のキリスト教理解	31	52	
		2292	小林 春樹	後漢における歴史書等の編纂と、校書等の学術事業について	53	71	
		2293	渡邊 義浩	『史通』の経書批判と『論衡』	73	96	
		2294	増木 優衣	インドにおける清掃人カーストへの社会的差別をめぐるNGOスラブの認識 —ニューデリーの「トイレ博物館」の事例から—	(1)	(28)	
		2295	篠田 隆	インド・グジャラート州における都市若者の内食状況 —アーメダバード市女子公立職業教育学校学生の事例研究—	(29)	(59)	
221	20211125	2296	布村 浩一	詩語のイメージ「ホトトギス」について	1	29	
		2297	柴田 善雅	管理通貨制移行後の樺太石炭会社の事業拡張と衰退	(1)	(45)	
		2298	岡倉 登志	岡倉天心をめぐる人々 —フェノロサ門下の友人たち(2)—嘉納治五郎(上)	(47)	(70)	
		2299	栗山 保之	ポルトガル来航期のインド洋におけるアラブの船乗りたちの風	(71)	(92)	
		2300	新井 和広	1940-50年代における東アフリカのアラブ： 「移送文書群」の「発見」と今後の研究の可能性	(93)	(119)	
222	20211225	2301	小坂 眞二	神祇と陰陽道(三)	1	24	
		2302	岡崎 邦彦	21世紀初頭の日中関係—2000年～2010年代の日中諸問題	(1)	(31)	
		2303	篠永 宣孝	ロシア革命前のロシア資本主義発展における古儀式派資本家の役割	(33)	(84)	

『東洋研究』論文総目録 (2024年7月31日現在)

巻号	発行年月日	分類番号	著者	論文	頁開始	頁終了
223	20220125			『茶譜』と茶の湯・香と座の文芸 特集号		
		2304	藏中 しのぶ	巻頭言『茶譜』と茶の湯・香と座の文芸	1	6
		2305	安保 博史	『茶譜』の語彙と近世俳諧―「しほからし」に注目して	7	34
		2306	高木 ゆみ子	『茶譜』における「香」関連語彙	35	65
		2307	松本 公一	珠光『心の文』の「和漢融合」と「わび」の展開	67	86
		2308	藏中しのぶ 安保博史	『茶譜注釈』補遺	87	111
224	20220725	2309	渡邊 義浩	呉起・孫臏の兵法と儒家	1	24
		2310	篠田 隆	インドにおける竈、燃料、水の利用にみられる社会格差―「インド人間開発調査」個票データの分析―	(1)	(28)
		2311	吉田 雄介	第一次世界大戦前にイランに輸入された東アジア産品の動向―中国産緑茶の輸入の盛衰を中心に―	(29)	(56)
		2312	A. R. ウルック	日本の絵馬による探求―視覚的オブジェを用いて聴覚・視覚情報を得る―	(57)	(90)
225	20221125	2313	布村 浩一	「管仲随馬」の享受史―「成長」する故事	1	26
		2314	田辺 清	レオナルド・ダ・ヴィンチと古典古代―東方との関連について―	(1)	(9)
		2315	中村 聡	日本に於けるプロテスタント第一世代の特色	(10)	(29)
		2316	岡倉 登志	岡倉天心をめぐる人々―フェノロサ門下の友人たち(3)―福富孝季と民権運動	(30)	(58)
		2317	柴田 善雅	帝国燃料興業株式会社の関係会社投資と戦後処理	(59)	(124)
226	20221225	2318	小坂 眞二	陰陽道研究の新展望(上)	1	20
		2319	松本 公一	香炉の茶の湯についての基礎的考察	21	52
		2320	藏中しのぶ	「冤」の連環―『南総里見八犬伝』「対牛楼の仇討ち」と「赤岩庚申山の妖猫退治」の照応―	53	79
		2321	齋藤 俊輔	ポルトガルのインド領の兵隊―アントニオ・ボカロ著『東インド領すべての要塞、都市、そして集落の図会』の分析から	(1)	(28)
		2322	池田 久代	堀至徳資料編纂より見えてきたもの―堀至徳のインド：青春の光と影―	(29)	(72)
227	20230125			西アジア地域をめぐる「水」の諸相 特集号		
		2323	吉村 武典	巻頭言	1	2
		2324	遠藤 仁	インド北西部の畜力揚水井戸―所謂ペルシア井戸の現況とその系譜	(1)	(20)
		2325	西川 優花	水国有化法・水公正配分法からみるイランの水資源と慣習的水利権	(21)	(50)
		2326	石井 啓一郎	N・ヒクメット、S・ヴルグンにおける「ファルハードと水路」の主題的展開―水資源をめぐる社会主義文学的自己犠牲譚の諸相	(51)	(85)
		2327	吉村 武典	前近代カイロにおける水供給―給水施設「サビール・クッターブ」をめぐる―	(87)	(114)
228	20230725	2328	フレデリック ジラルール	日本の哲学・宗教・文学における「人間の本性」「存在の意義」「多重層の存在論」の探求―『大乘起信論』を通して―	(1)	(31)
		2329	田中 寛	国分太郎の戦地体験と中国民衆像―『戦地の子供』、『外国権益』からの再検証―	(33)	(60)
		2330	篠永 宣孝	日露戦争の起源と日露金融戦争(マネー・ウォー)	(61)	(96)
		2331	伊藤 一彦	中国における朝鮮独立運動の展開	(97)	(132)
		2332	篠田 隆	インド・グジャラート州における家庭食の変容―アーメダバード市の都市中産階級世帯の事例研究―	(133)	(171)
229	20231125	2333	布村 浩一	「牡丹」の表現史	1	28
		2334	吉田 雄介	近代期の神戸を経由した植民地内交易ネットワーク―ハッサム商会の破綻と事業継承を事例に―	(1)	(26)
		2335	高田 茂臣	蒙疆政権官吏の日中戦争	(27)	(44)
		2336	A. R. ウルック	白よりも白く洗う―分離型カタカナと外在化という日本の文化現象 理論的展望―	(45)	(72)
230	20231225	2337	高木ゆみ子	藤原頼長と音楽―『台記』を中心に(四)久安年間―	1	33
		2338	岡本佳子	岡倉覚三が描く「道教」―『茶の本』と20世紀転換期の寓話―	(1)	(32)
		2339	柴田善雅	シベリア出兵期日本金融圏の拡張と朝鮮銀行の活動	(33)	(81)
		2340	栗山保之	インド洋のムアッリム―ポルトガル来航期における船乗りの一類型―	(83)	(113)
		2341	田辺 清	レオナルド・ダ・ヴィンチの素描様式と東方―初期作品と《レダと白鳥》をめぐって―	(115)	(126)
231	20240125	2342	高橋あやの	南宋『中興四朝国史』天文志の特徴―『文献通考』象緯考を手掛かりとして	1	31
		2343	藏中しのぶ	『南総里見八犬伝』の富士山図―仇討ち譚と『維摩経』「不二法門」附、稗史七則と「対」の構造―	33	71
		2344	岡倉登志	岡倉天心をめぐる人々―フェノロサ門下の友人たち(4)―井上哲次郎と有賀長雄	(1)	(28)
		2345	新井和広	家系の広がり―墓参の役割：20世紀初頭の南アラビア・ハドラマウト地方の事例から	(29)	(55)
		2346	須田敏彦	(研究ノート) コロナ後のバングラデシュ農村を歩く―フィールドノート・クミッタ県編―	(57)	(102)
232	20240725	2347	渡邊義浩	『韓詩内傳』と「物語」	1	21
		2348	田中良明	前漢期に於ける五星占の状況	23	67
		2349	A. R. ウルック	現代日本における文化現象としてのマスク：位置と目的についての探究(下)	(1)	(39)
		2350	須田敏彦	コロナ後のバングラディッシュ農村を歩く(2)―フィールドノート・ロングブル管区編―	(41)	(78)